

第18回 統一地方選挙全国意識調査

—調査結果の概要—

平成28年2月

総務省

(公財) 明るい選挙推進協会

はしがき

平成 27 年 4 月 12 日、26 日に第 18 回統一地方選挙が行われました。

本調査は、当該選挙における有権者の投票行動や選挙情報、選挙啓発への接触状況などを尋ね、その結果を分析し今後の課題等を整理しようとしたものです。

この調査は従来、公益財団法人明るい選挙推進協会が継続して実施してきましたが、今回はその流れを踏襲する形で総務省と同協会が共同で実施しました。

調査対象者はこれまでと同様に全国の有権者 3,000 人としましたが、調査方法を前回までの面接調査法から郵送調査法に改めました。また今回は、東京都知事選が統一選から外れたため、東京都は調査対象区域から除外されています。これらの点を踏まえ、本報告書内に掲載の時系列比較の図表などは特に留意の上、ご覧いただきたいと思えます。

なお、本報告書の監修については、埼玉大学教授 松本正生氏、東京大学准教授 前田幸男氏にご協力をいただきました。

これまで作成してきました質問票と報告書は、明るい選挙推進協会のホームページで公開しております。

本調査が、今後の啓発事業のよき参考になれば幸いです。

平成 28 年 2 月

総務省

公益財団法人明るい選挙推進協会

<目 次>

調査の設計	1
調査抽出方法	3
質問票と回答の単純分布	6
はじめに	19
投票率・選挙競争率	20
調査結果の概要	23
1 選挙関心度	24
2 投票・棄権の選択	26
3 政党支持と投票行動	31
4 投票・棄権の理由、投票決定時期等	34
5 選挙で考慮した政策課題	37
6 選挙関連情報への接触度と有効度	39
7 選挙のあり方	44
8 国と地方の政治の評価	46
9 議員の役割	47
10 後援会への加入	48
11 政治家の寄附禁止の周知	49
12 選挙制度など	50

*ページ番号は現時点のもの

調査の設計

1 調査の目的

この調査は、平成 27 年 4 月 12 日と 4 月 26 日に執行された第 18 回統一地方選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

2 調査の項目

この調査は、次の諸項を調査の目的とした。

- (1) 道府県議会議員選挙の投票の経緯
- (2) 知事選挙の投票の経緯
- (3) 市区町村長選挙の投票の経緯
- (4) 市区町村議会議員選挙の投票の経緯
- (5) 地方選挙に関する意向
- (6) 政治に対する関心と態度

3 調査の設計

この調査は、次のように設計した。

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| (1) 調査地域 | 全国（岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都、沖縄県を除く） |
| (2) 調査対象 | 満 20 歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000 人 |
| (4) 標本抽出 | 選挙人名簿を使用 |
| (5) 抽出方法 | 層化 2 段無作為抽出法 |
| (6) 調査方法 | 郵送配付郵送回収法 |
| (7) 調査時期 | 平成 27 年 10 月 8 日～11 月 5 日 |
| | 事前葉書投函 10 月 3 日 |
| | 調査票発送 10 月 8 日 |
| | 1 回目督促（葉書）投函 10 月 21 日 |
| | 2 回目督促（封書）投函 10 月 29 日 |
| (8) 調査実施委託機関 | 一般社団法人 中央調査社 |

4 回収結果

(1) 有効回収数 (%) 2,252 (75.1%)

(2) 男女別・年齢別・都市規模別回収結果

①男性 (NA (無回答) を除く)

年代	標本数	回収数	回収率
20 歳代	137	79	57.7
30 歳代	231	140	60.6
40 歳代	253	163	64.4
50 歳代	251	198	78.9
60 歳代	285	243	85.3
70 歳代	223	181	81.2
80 歳以上	106	78	73.6
合計	1,486	1,082	72.8

②女性 (NA (無回答) を除く)

年代	標本数	回収数	回収率
20 歳代	150	111	74.0
30 歳代	190	146	76.8
40 歳代	288	220	76.4
50 歳代	221	169	76.5
60 歳代	306	251	82.0
70 歳代	227	187	82.4
80 歳以上	132	86	65.2
合計	1,514	1,170	77.3

③都市規模

都市規模	標本数	回収数	回収率
大都市	744	561	75.4
10 万人以上の市	1,285	973	75.7
10 万人未満の市	690	512	74.2
町 村	281	206	73.3
合計	3,000	2,252	75.1

標本抽出方法

- 1 母集団 : 全国の市区町村に居住する満 20 歳以上の男女個人
(但し、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都、沖縄県は除く)
- 2 標本数 : 3,000 人
- 3 地点数 : 202 市区町村 203 地点
- 4 抽出方法 : 層化 2 段無作為抽出法

〔層化〕

(1) 全国の市町村を、都道府県を単位として次の 11 地区に分類した。

(地 区)

北海道地区＝北海道	(1 道)
東北地区 ＝青森県、秋田県、山形県	(3 県)
関東地区 ＝栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県	(5 県)
北陸地区 ＝新潟県、富山県、石川県、福井県	(4 県)
東山地区 ＝山梨県、長野県、岐阜県	(3 県)
東海地区 ＝静岡県、愛知県、三重県	(3 県)
近畿地区 ＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2 府 4 県)
中国地区 ＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5 県)
四国地区 ＝徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4 県)
北九州地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4 県)
南九州地区＝熊本県、宮崎県、鹿児島県	(3 県)

(2) 各地区においては、さらに都市規模によって次のように 22 分類しそれぞれを第 1 次層として、計 52 層とした。

◎ 大都市 (都市ごとに分類)

(札幌市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、
浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、
熊本市)

◎ 人口 10 万人以上の市

◎ 人口 10 万人未満の市

◎ 町村

(注) ここでいう市とは、平成 27 年 4 月 1 日現在市制施行の地域である。

- (3) 各地区・都市規模の層別における母集団人口（平成 26 年 1 月 1 日現在の満 20 歳以上の人口）の大きさにより、3,000 の標本数を比例配分し、1 調査地点の標本数が 9～17 人になるように調査地点数を決めた。

〔抽出〕

- (1) 第一次抽出単位となる調査地点として、平成 22 年国勢調査時に設定された調査地区を使用した。
 (2) 調査地点（調査区）の抽出は、調査地点数が 2 地点以上割り当てられた層については、

抽出間隔＝層における国勢調査時の当該母集団人口（計）

層で算出された調査地点数

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が 1 地点の場合には、乱数表により無作為に抽出した。

- (3) 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成 22 年国勢調査時の市区町村コード順に従った。
 (4) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した、

5 結果

以上、抽出作業の結果得られた地区・都市規模別標本数・調査地点数は、次のとおりである。

※（ ）内は調査地点数

	大都市	人口 10 万人 以上の市	人口 10 万人 未満の市	町 村	計
北海道	57(4)	45(3)	29(2)	30(2)	161(11)
東 北		45(3)	41(3)	20(2)	106(8)
関 東	229(17)	374(23)	111(7)	46(3)	760(50)
北 陸	23(2)	64(4)	56(4)	13(1)	156(11)
東 山		55(4)	65(4)	26(2)	146(10)
東 海	108(8)	163(10)	74(5)	25(2)	370(25)
近 畿	184(13)	259(16)	116(7)	34(2)	593(38)
中 国	53(4)	100(6)	45(3)	17(1)	215(14)
四 国		59(4)	37(3)	19(2)	115(9)
北九州	69(5)	73(5)	73(5)	29(2)	244(17)
南九州	21(2)	48(3)	43(3)	22(2)	134(10)
計	744(55)	1,285(81)	690(46)	281(21)	3,000(203)

大都市（各都市別）

札幌市	57 (4)
さいたま市	35 (3)
千葉市	27 (2)
横浜市	106 (7)
川崎市	41 (3)
相模原市	20 (2)
新潟市	23 (2)
静岡市	21 (2)
浜松市	23 (2)
名古屋市	64 (4)

※（ ）内は調査地点数

京都市	41 (3)
大阪市	75 (5)
堺市	24 (2)
神戸市	44 (3)
岡山市	20 (2)
広島市	33 (2)
北九州市	28 (2)
福岡市	41 (3)
熊本市	21 (2)

質問票と回答の単純分布

道府県議会議員選挙について

Q 1 あなたは、4月12日に行われた道府県議会議員選挙について、どれくらい関心がありましたか。(〇は1つ)

n=2, 252

- 11.9 非常に関心があった
- 39.9 多少は関心があった
- 34.0 あまり関心がなかった
- 11.2 全く関心がなかった
- 2.2 わからない

(0.8 無回答)

Q 2 あなたは、今回の道府県議選で投票に行きましたか。(〇は1つ)

- 59.2 投票に行った
- 34.7 投票に行かなかった → Q 9へお進みください
- 3.9 無投票であった
- 1.9 わからない → Q11へお進みください

(0.3 無回答)

Q 3 道府県議選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものをお答えください。(〇は1つ)

n=1, 334

- 17.5 当選させたい候補者がいたから
- 38.7 政治をよくするためには投票することが大事だから
- 37.9 投票するのは住民の義務だから
- 4.0 団体、地元、知り合い等に頼まれて
- 0.8 その他 (具体的に)
- 0.3 わからない

(0.7 無回答)

Q 4 当日投票をしましたか、それとも期日前投票または不在者投票をしましたか。(〇は1つ)

n=1, 334

- 78.3 当日投票をした
- 17.5 期日前投票をした
- 2.8 不在者投票をした
- 0.4 わからない → Q 5へお進みください

(1.0 無回答)

Q 4 S Q 投票に行ったのは何時頃ですか。

(〇は1つ)

n=1, 315

- 55.6 午前中
- 30.6 午後 (6時まで)
- 8.2 午後6時から8時の間
- 2.9 わからない

(2.7 無回答)



※Q 5へお進みください

【Q2で「投票に行った」と回答された方に】

Q5 道府県議選で、あなたはどのような政策課題を
考慮しましたか。(〇はいくつでも)

n=1,334

- 55.1 医療・介護
 - 24.3 教育
 - 43.6 景気・雇用
 - 19.2 少子化対策
 - 47.6 高齢化対策
 - 19.0 災害対策
 - 8.4 治安対策
 - 9.1 地方議会の改革
 - 11.2 地方自治のあり方
 - 11.9 地方の行財政改革
 - 8.1 中小企業対策
 - 7.8 農林水産業の振興
 - 2.9 社会資本整備
 - 11.9 環境対策
 - 14.9 原発・エネルギー
 - 13.0 地方創生
 - 10.5 国政の動向
 - 1.8 その他(具体的に)
 - 7.0 政策は考えなかった
 - 2.5 わからない
- (0.9 無回答)

Q6 道府県議選で、あなたが投票した人は何党の
人でしたか。(〇は1つ)

- 47.4 自由民主党
 - 15.2 民主党
 - 6.6 維新の党
 - 7.6 公明党
 - 0.1 次世代の党
 - 6.7 日本共産党
 - 1.0 社会民主党
 - 0.2 生活の党と山本太郎となかまたち
 - 0.4 その他の党(具体的に)
 - 6.7 無所属
 - 0.6 白票を入れた
 - 5.6 わからない
- (1.8 無回答)

Q7 あなたが道府県議選で投票する人を
決めたのは、いつ頃でしたか。(〇は1つ)

- 27.6 選挙期間に入る前から(4月2日以前)
 - 27.0 候補者が出揃った時(4月3日(金))
 - 30.8 選挙期間中(投票日の前日まで)
 - 10.6 投票日当日(4月12日(日))
 - 2.1 わからない
- (1.9 無回答)

Q8 道府県議選で、あなたは政党を重くみて投票
しましたか、それとも候補者個人を重くみて
投票しましたか。(〇は1つ)

- 42.1 政党を重くみて
 - 33.0 候補者個人を重くみて
 - 20.2 一概にいけない
 - 2.7 わからない
- (1.9 無回答)



※Q11へお進みください

【Q2で「投票に行かなかった」と回答された方に】

Q9 道府県議選で投票に行かなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

n=781

- 25.0 仕事があったから
- 8.7 重要な用事(仕事を除く)があったから
- 12.4 体調がすぐれなかったから
- 3.1 投票所が遠かったから
- 33.9 選挙にあまり関心がなかったから
- 26.5 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから
- 8.1 支持する政党の候補者がいなかったから
- 19.2 適当な候補者がいなかったから
- 9.6 私一人が投票してもしなくても同じだから
- 0.6 今の政治を変えなくてもいいと思ったから
- 7.2 選挙結果が予想できる無風選挙であったから
- 13.8 選挙によって政治はよくなると思ったから
- 1.8 今住んでいる所に選挙権がないから
- 7.4 その他(具体的に)
- 0.9 わからない

(1.2 無回答)

Q10 あなたはどのような状況だったら投票に行こうと思いますか。(〇は1つ)

- 8.8 投票所が近かったら
- 0.9 投票所まで無料のバスなどが運行されたら
- 28.6 駅やショッピングセンター・コンビニなどでも投票できたら
- 8.7 期日前投票が午後8時以降もできたら
- 22.0 その他(具体的に)
- 23.4 わからない

(7.6 無回答)

知事選挙について

【全員の方に】

Q11 あなたのお住まいの地域では4月12日に知事選挙が行われましたか。(〇は1つ)

n=2,252

- 34.2 行われた
- 36.9 行われなかった
- 26.7 わからない
- (2.1 無回答)

→ Q19へお進みください

→Q12 あなたは、今回の知事選についてどれくらい関心がありましたか。(〇は1つ)

n=771

- 15.0 非常に関心があった
- 44.1 多少は関心があった
- 30.6 あまり関心がなかった
- 6.7 全く関心がなかった
- 0.9 わからない
- (2.6 無回答)

Q13 あなたは、今回の知事選で投票に行きましたか。(〇は1つ)

69.9 投票に行った

- 28.1 投票に行かなかった → Q18へお進みください
- 0.5 わからない → Q19へお進みください
- (1.4 無回答)

→Q14 知事選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものをお答えください。(〇は1つ)

n=539

- 17.1 当選させたい候補者がいたから
- 42.5 政治をよくするためには投票することが大事だから
- 34.3 投票するのは住民の義務だから
- 1.5 団体、地元、知り合い等に頼まれて
- 1.3 その他(具体的に)
- 2.0 わからない
- (1.3 無回答)

Q15 知事選で、あなたはどのような政策課題を考慮しましたか。(〇はいくつでも)

- 52.9 医療・介護
- 24.5 教育
- 45.3 景気・雇用
- 20.8 少子化対策
- 51.0 高齢化対策
- 20.6 災害対策
- 9.3 治安対策
- 9.1 地方議会の改革
- 15.2 地方自治のあり方
- 14.8 地方の行財政改革
- 11.1 中小企業対策
- 8.9 農林水産業の振興
- 3.0 社会資本整備
- 13.4 環境対策
- 16.9 原発・エネルギー
- 14.7 地方創生
- 6.5 国政の動向
- 2.0 その他(具体的に)
- 7.8 政策は考えなかった
- 1.9 わからない
- (2.6 無回答)

Q16 あなたが知事選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。(〇は1つ)

- 26.5 選挙期間に入る前から(3月25日以前)
- 35.3 候補者が出揃った時(3月26日(木))
- 24.3 選挙期間中(投票日の前日まで)
- 8.7 投票日当日(4月12日(日))
- 2.0 わからない
- (3.2 無回答)

Q17 知事選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。(〇は1つ)

- 24.1 政党を重くみて
- 52.5 候補者個人を重くみて
- 18.9 一概にいけない
- 2.0 わからない
- (2.4 無回答)

↓
※Q19へお進みください

【Q13で「投票に行かなかった」と回答された方に】

Q18 知事選で投票に行かなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

n=217

- 22.1 仕事があったから
- 10.1 重要な用事(仕事を除く)があったから
- 15.7 体調がすぐれなかったから
- 3.7 投票所が遠かったから
- 22.1 選挙にあまり関心がなかったから
- 16.6 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから
- 8.3 支持する政党の候補者がいなかったから
- 13.8 適当な候補者がいなかったから
- 7.8 私一人が投票してもしなくても同じだから
- 1.4 今の政治を変えなくてもいいと思ったから
- 18.4 選挙結果が予想できる無風選挙であったから
- 7.4 選挙によって政治はよくならないと思ったから
- 1.4 今住んでいる所に選挙権がないから
- 7.8 その他(具体的に)
- 0.9 わからない
- (1.8 無回答)

市町村長選挙について

【全員の方に】

Q19 あなたのお住まいの地域では4月12日に指定都市市長選挙、または4月26日に市町村長選挙が行われましたか。(〇は1つ)

n=2,252

27.8 行われた

41.0 行われなかった

28.2 わからない

(3.0 無回答)

→ Q25へお進みください

→ Q20 あなたは今回の市(町村)長選について、どれくらい関心がありましたか。(〇は1つ)

n=627

21.7 非常に関心があった

46.7 多少は関心があった

22.2 あまり関心がなかった

4.8 全く関心がなかった

1.3 わからない

(3.3 無回答)

Q21 あなたは、今回の市(町村)長選で投票に行きましたか。(〇は1つ)

71.3 投票に行った

23.0 投票に行かなかった

2.2 無投票であった

1.1 わからない

(2.4 無回答)

→ Q25へ

お進みください

→ Q22 市(町村)長選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものをお答えください。(〇は1つ)

n=447

26.0 当選させたい候補者がいたから

36.9 政治をよくするためには投票することが大事だから

30.2 投票するのは住民の義務だから

2.5 団体、地元、知り合い等に頼まれて

2.0 その他(具体的に)

0.9 わからない

(1.6 無回答)

Q23 あなたが市(町村)長選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。(〇は1つ)

28.2 選挙期間に入る前から

38.0 候補者が出揃った時

22.4 選挙期間中(投票日の前日まで)

8.7 投票日当日

0.4 わからない

(2.2 無回答)

Q24 市(町村)長選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。(〇は1つ)

22.4 政党を重くみて

55.5 候補者個人を重くみて

18.8 一概にいえない

1.8 わからない

(1.6 無回答)

市町村議会議員選挙について

【全員の方に】

Q25 あなたのお住まいの地域では4月12日に指定都市市議会議員選挙、または4月26日に市町村議会議員選挙が行われましたか。(○は1つ)

n=2,252

(○は1つ)

47.4 行われた

21.3 行われなかった

28.9 わからない

(2.4 無回答)

→ Q31へお進みください

→ Q26 あなたは、今回の市(町村)議選について、どれくらい関心がありましたか。(○は1つ)

n=1,067

21.5 非常に関心があった

44.7 多少は関心があった

26.9 あまり関心がなかった

4.7 全く関心がなかった

0.8 わからない

(1.4 無回答)

Q27 あなたは、今回の市(町村)議選で投票に行きましたか。(○は1つ)

75.9 投票に行った

20.7 投票に行かなかった

1.1 無投票であった

0.7 わからない

(1.5 無回答)

→ Q31へ

お進みください

→ Q28 市(町村)議選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものをお答えください。(○は1つ)

n=810

30.0 当選させたい候補者がいたから

33.2 政治をよくするためには投票することが大事だから

30.4 投票するのは住民の義務だから

3.5 団体、地元、知り合い等に頼まれて

1.2 その他(具体的に)

0.9 わからない

(0.9 無回答)

Q29 あなたが市(町村)議選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。(○は1つ)

28.5 選挙期間に入る前から

30.4 候補者が出揃った時

27.4 選挙期間中(投票日の前日まで)

9.8 投票日当日

0.7 わからない

(3.2 無回答)

Q30 市(町村)議選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。(○は1つ)

27.8 政党を重くみて

48.6 候補者個人を重くみて

19.3 一概にいけない

1.1 わからない

(3.2 無回答)

↓
※Q31へお進みください

今回の統一地方選挙全般について

【全員の方に】

Q31 今回の統一地方選挙では、道府県議選や市区町村長選などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどう思われますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください。

n=2, 252

(○は1つ)

- 32.3 公職者（首長や議会議員）は投票で決めるのが本すじであるのに、投票なしに決まるのはおかしい
- 39.5 定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になっても仕方がない
- 10.5 選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい
- 2.3 その他（具体的に
- 12.6 わからない
- (2.8 無回答)

Q32 あなたは今回の統一地方選挙で投票日より前に行われた下記の報道などを見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたものがあればすべて選んでA欄に○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでB欄に○をつけてください。

(○はいくつでも)

A : n=2, 252 B : n=1, 764	A	B
テレビの選挙関係報道（解説・評論を含む）	63.4	37.0
ラジオの選挙関係報道（解説・評論を含む）	8.4	4.6
新聞の選挙関係報道（解説・評論を含む）	54.9	39.6
週刊誌・雑誌の選挙関係報道 （解説・評論を含む）	5.3	2.4
インターネット上の選挙関係情報	11.8	8.4
この中のどれも聞きしない	8.4	
役に立ったものはない		7.6
わからない	8.1	5.6
（無回答）	5.1	27.9

Q33 今回の統一地方選挙で、総務省や都道府県・市区町村の選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いました。下記の中で見たり聞いたりしたのがありますか。

n=2, 252

(○はいくつでも)

- 42.8 新聞広告
 - 49.8 テレビスポット広告
 - 6.5 ラジオスポット広告
 - 11.2 交通広告（車内・駅・バス）
 - 2.4 雑誌広告（フリーペーパーを含む）
 - 25.5 啓発ポスター・チラシ
 - 27.3 国や都道府県、市区町村の広報紙
 - 19.0 都道府県・市区町村の広報車
（候補者の選挙運動用自動車は含まない）
 - 9.9 街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン
 - 15.0 立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン、電光掲示板、大型映像広告
 - 1.7 デパート、ショッピングセンター、遊園地などでのアナウンス
 - 0.5 銀行などのATM
 - 0.8 コンビニのレジ画面
 - 1.8 有線放送
 - 2.0 国、都道府県、市区町村のホームページ、SNS（ツイッター、フェイスブック、LINE）
 - 5.0 インターネット上での広告
（バナー、動画広告等）
 - 0.7 その他（具体的に
 - 8.8 聞きしなかった
 - 9.4 わからない
 - (2.0 無回答)
- Q34** あなたは、今回の統一地方選挙の候補者の後援会に加入されていますか。(○は1つ)
- 8.7 加入している
 - 84.8 加入していない
 - 3.5 わからない
 - (3.0 無回答)

Q35 あなたは今回の統一地方選挙で、下記の選挙運動を見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたものがあればすべて選んでA欄に○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでB欄に○をつけてください。(○はいくつでも)

	A	B
演説会	10.0	6.7
街頭演説	36.5	11.8
連呼	30.2	2.7
候補者の新聞広告(知事選のみ)	15.8	7.4
候補者の葉書	21.6	5.7
ビラ(マニフェスト)(知事選、市長選のみ)	13.3	4.4
候補者のポスター	49.4	9.9
テレビ政見放送(経歴放送を含む、知事選のみ)	16.4	8.8
ラジオ政見放送(経歴放送を含む、知事選のみ)	1.6	0.8
選挙公報	25.8	17.3
合同個人演説会(公開討論会を含む)	2.1	1.4
電話による勧誘	10.7	1.1
インターネットによる選挙運動 (候補者のホームページ、ブログ、SNS等)	2.6	2.2
この中のどれも見聞きしない	6.9	
役に立ったものはない		12.3
わからない	6.7	5.0
(無回答)	4.8	38.7

地方選挙等について

Q36 地方選挙について「候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」という声があります。最近の地方選挙で、あなたはそう感じたことがありますか。(○は1つ)

53.4 ある

28.6 ない

14.9 わからない

(3.0 無回答)

→ Q37へお進みください

Q36SQ どの選挙でしたか。(○はいくつでも)

n=1,203

33.6 知事選挙

64.6 県(都・道・府)議会議員選挙

33.3 市(区・町・村)長選挙

59.6 市(区・町・村)議会議員選挙

8.6 わからない (2.0 無回答)

【全員の方に】

Q37 最近の選挙では投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについてどのようにお考えですか。(○は1つ)

n=2,252

10.7 投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわないと思う

27.3 自分たちの代表を選ぶ選挙だから、好ましくはないが、やむをえないと思う

53.3 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う

4.9 わからない

(3.8 無回答)

Q38 地方議会の議員の定数についてあなたはどのように思われますか。道府県議会議員についてはA欄に、市町村議会議員についてはB欄に、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	A	B
現状でよい	13.8	9.0
減らしたほうがよい	45.7	45.5
増やしたほうがよい	0.6	0.8
一概にいけない	13.7	12.3
わからない	19.6	16.1
(無回答)	6.6	16.3

Q39 道府県議会議員に対して、あなたはどのような役割を望まれていますか。(○は1つ)

14.4 地域の面倒をこまめにみる

2.7 対立する意見や利害を調整する

0.8 支援団体(地域や団体など)の利益を考える

33.6 地域の発展を考える

33.5 県(道府)全体の将来を考える

0.8 その他(具体的に)

5.6 特に期待するものはない

5.0 わからない

(3.5 無回答)

Q40 では、市町村議会議員に対しては、あなたはどのような役割を望まれていますか。

(○は1つ)

- 22.9 地域の面倒をこまめにみる
- 2.0 対立する意見や利害を調整する
- 0.5 支援団体（地域や団体など）の利益を考える
- 29.1 地域の発展を考える
- 34.0 市（町村）全体の将来を考える
- 0.8 その他（具体的に)
- 5.0 特に期待するものはない
- 4.0 わからない

(1.8 無回答)

政治・選挙等について

Q41 下記の選挙の中で、あなたが特に関心をお持ちになる選挙を2つ選んでください。

(○は2つ)

- 54.6 衆議院議員選挙
- 22.3 参議院議員選挙
- 23.6 知事選挙
- 7.2 県（都・道・府）議会議員選挙
- 28.2 市（区・町・村）長選挙
- 19.1 市（区・町・村）議会議員選挙
- 11.4 どれも関心を持たない
- 6.0 わからない

(1.6 無回答)

Q42 あなたは日本の政治を全体として考えた場合、どういう感じをお持ちになりますか。

(○は1つ)

- 0.9 非常によい
- 16.3 まあよい
- 44.8 あまりよくない
- 16.7 非常に悪い
- 14.0 どちらともいえない
- 5.6 わからない

(1.6 無回答)

Q43 あなたの県（道・府）の政治を全体として考えた場合、どういう感じをお持ちになりますか。

(○は1つ)

- 0.7 非常によい
- 31.3 まあよい
- 29.3 あまりよくない
- 6.1 非常に悪い
- 19.9 どちらともいえない
- 11.2 わからない

(1.4 無回答)

Q44 あなたの市（町・村）の政治を全体として考えた場合、どういう感じをお持ちになりますか。

(○は1つ)

- 0.9 非常によい
- 31.8 まあよい
- 30.3 あまりよくない
- 7.4 非常に悪い
- 17.9 どちらともいえない
- 10.0 わからない

(1.6 無回答)

Q45 あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- 2.0 大いに満足している
- 47.0 だいたい満足している
- 34.7 やや不満足である
- 11.1 大いに不満足である
- 3.8 わからない

(1.4 無回答)

Q46 あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか。(○は1つ)

- 13.8 非常に関心を持っている
- 61.6 多少は関心を持っている
- 16.0 ほとんど関心を持っていない
- 3.6 全く関心を持っていない
- 3.6 わからない

(1.4 無回答)

Q47 投票時間は原則午後8時までとなっていますが、最近、投票時間を繰り上げて短くしているところもあります。あなたの投票区の投票時間は何時まででしたか。(〇は1つ)

- 3.3 午後6時以前
 - 12.6 午後7時
 - 53.5 午後8時
 - 0.3 その他(具体的に)
 - 26.2 わからない
- (4.0 無回答)
- Q48へ
お進み
ください

Q47SQ あなたは、現在の投票時間についてどうお感じになられていますか。(〇は1つ)

- n=359
- 74.4 今のままでよい
 - 12.8 もっと早く終了してもいい
 - 9.5 もっと遅くまで投票できるようにした方がよい
 - 0.3 その他(具体的に)
 - 1.7 わからない
 - 1.4 無回答

【全員の方に】

Q48 あなたのご自宅から投票所に行くのには、何分くらいかかりますか。(〇は1つ)

- n=2,252
- 33.9 5分未満
 - 44.0 10分未満
 - 12.9 20分未満
 - 2.9 20分以上
 - 2.9 わからない
 - 3.4 無回答

Q49 あなたの投票所は以前に比べ遠くなりましたか、近くなりましたか。(〇は1つ)

- 4.6 遠くなった
 - 80.4 変わらない
 - 6.3 近くなった
 - 6.0 わからない
- (2.8 無回答)
- Q50へお進みください

Q49SQ 投票所が「遠くなった」ことについてあなたはどのようにお感じになられていますか。(〇は1つ)

- n=103
- 41.7 今のままでよい
 - 12.6 今より投票所の数を増やし、もっと近い場所に設置して欲しい
 - 8.7 経費の削減につながるのなら今より投票所の数を減らしてもかまわない
 - 3.9 投票所まで無料のバスなどを運行して欲しい
 - 23.3 どこでも(投票区外)投票できるようにして欲しい
 - 1.9 その他(具体的に)
 - 5.8 わからない (1.9 無回答)

【全員の方に】

Q50 きれいな選挙の実現や投票率の向上のために明るい選挙推進運動が行われています。都道府県や市区町村の選挙管理委員会と協力してこの運動を行っている、「明るい選挙推進協議会」や「白ばら会」があることをご存知ですか。

- (〇は1つ)
- n=2,252
- 12.6 知っている
 - 78.6 知らない
 - 6.7 わからない
- (2.0 無回答)

Q51 政治家が選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となります。あなたはこのことをご存知でしたか。(〇は1つ)

- 89.9 知っていた
 - 5.8 知らなかった
 - 2.4 わからない
- (1.9 無回答)

Q52 政治家が下記のものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。(○はいくつでも)

- 75.4 お歳暮やお中元
- 66.0 入学祝、卒業祝
- 17.7 政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝
- 37.4 葬式の花輪、供花
- 33.2 秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典
- 45.3 落成式、開店祝の花輪
- 34.9 秘書等が代理で出席する場合の結婚祝
- 46.9 お祭りへの寄附や差し入れ
- 48.0 地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ
- 56.7 町内会の集会や旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ
- 16.1 政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典
- 32.8 病気見舞
- 13.9 わからない
- (3.3 無回答)

Q53 あなたは「国民投票法(憲法改正国民投票法)」を知っていますか。(○は1つ)

- 3.3 よく知っている
- 21.0 だいたい内容を知っている
- 40.9 内容は知らないが言葉は聞いたことがある
- 32.4 知らない
- (2.3 無回答)

Q54 平成26年6月の国民投票法の改正により、平成30年6月21日以後に行われる国民投票から、投票権年齢が満18歳以上に引き下げられることとなりました。あなたはこのことをご存知でしたか。(○は1つ)

- 39.6 知っていた
- 49.6 投票権年齢が満18歳以上であることは知っていたが、平成30年6月21日以後の国民投票からであることは知らなかった
- 9.2 知らなかった
- (1.6 無回答)

Q55 平成27年6月の公職選挙法の改正により、平成28年6月19日の後に行われる国政選挙の公示日以後にその期日を公示又は告示される選挙から、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられることとなりました。あなたはこのことをご存知でしたか。(○は1つ)

- 37.1 知っていた
- 51.7 選挙権年齢が満18歳以上であることは知っていたが、開始時期は知らなかった
- 9.3 知らなかった
- (1.9 無回答)

Q56 あなたはふだん何党を支持していますか。

(○は1つ)

- 34.3 自由民主党
- 9.9 民主党
- 3.7 維新の党
- 3.6 公明党
- 0.2 次世代の党
- 2.8 日本共産党
- 0.8 社会民主党
- 0.2 生活の党と山本太郎となかまたち
- 0.3 その他の党(具体的に)
- 37.9 支持政党なし
- 4.7 わからない
- (1.8 無回答)

Q57 明るい選挙推進運動のシンボルキャラクター「選挙のめいすいくん」(封筒の表に記載されています)をあなたは見たことがありますか。

(○は1つ)

- 9.7 ある
- 75.0 ない
- 13.9 わからない
- (1.4 無回答)

【全員の方に】

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。
(○は1つ)

- 48.0 男性
- 52.0 女性

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。年齢をお書きください。

	歳
--	---

- 8.4 20～29 歳 12.7 30～39 歳
- 17.0 40～49 歳 16.3 50～59 歳
- 21.9 60～69 歳 16.3 70～79 歳
- 7.3 80 歳以上

F 3 あなたが最後に在籍した（又は現在在籍している）学校を、下記の中からお答えください。
(○は1つ)

- 15.3 小学校・中学校卒（高等小学校を含む）
- 39.5 高校卒（旧制中学校を含む）
- 17.6 短大・高専・専修学校卒
- 25.9 大学・大学院卒（旧制高校、旧制専門学校を含む）
- 0.6 わからない
- (1.1 無回答)

F 4 あなたの職業についてお聞きします。あなたのお仕事は下記のどれにあてはまりますか。
(○は1つ)

- 47.8 勤め
- 8.7 自営業主、自由業者
- 1.8 家族従業
- 1.3 学生
- 18.4 主婦
- 19.8 無職

→ F 5へお進みください

→ F 4 S Q 1へ

F 4 S Q 1 あなたの職業は下記のように分類した場合、どれにあたりますか。
(○は1つ)

n=1,314

- 18.5 経営者・役員・管理職
- 45.1 正社員・正職員
- 1.6 派遣社員
- 26.7 パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託
- 5.4 その他
- (2.7 無回答)

F 4 S Q 2 下記のように分類した場合、あなたの職業はどれにあたりますか。(○は1つ)

- 5.2 農・林・水産に関わる仕事
(農作物生産者、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など)
- 1.7 保安の仕事
(警察官、消防官、自衛官、警備員など)
- 6.8 運輸・通信の仕事
(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など)
- 18.0 製造業の仕事
(製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など)
- 26.4 販売・サービスの仕事
(小売・卸売店主・店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールス、理・美容師、コック・料理人、ウェ이터・ウェイトレス、客室乗務員など)
- 20.6 専門・技術の仕事
(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの)
- 16.2 事務の仕事
(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の仕事など)
- 2.9 その他（具体的に）
- (2.2 無回答)

【全員の方に】

F 5 あなたは、この市（区・町・村）に何年くらい住んでいますか。（○は1つ）

n=2,252

- 23.0 生まれてからずっと
- 47.3 20年以上（生まれてからずっとを除く）
- 16.2 10年以上
- 7.9 3年以上
- 4.1 3年未満
- 0.2 わからない

（1.3 無回答）

F 6 あなたのご家族は、下記のように分類した場合どれにあたりますか。（○は1つ）

- 12.4 1人世帯
- 30.2 一世代世帯（夫婦だけ）
- 43.8 二世帯世帯
- 8.0 三世帯世帯
- 3.3 その他の世帯
- 1.3 わからない

（1.0 無回答）

F 7 あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか。（○は1つ）

- 31.8 パソコン
- 29.4 スマートフォン
- 4.0 タブレット
- 29.8 インターネットは使わない

（5.0 無回答）

F 8 あなたは、下記のような団体に加入していますか。（○はいくつでも）

- 36.4 自治会
 - 2.7 婦人会
 - 1.2 青年団・消防団
 - 5.5 老人クラブ（会）
 - 6.8 P T A
 - 3.2 農協その他の農林漁業団体
 - 6.7 労働組合
 - 1.9 商工業関係の経済団体
 - 4.1 宗教団体
 - 14.3 同好会・趣味のグループ
 - 0.9 住民運動・消費者運動・市民運動の団体
 - 1.5 N P O・地域づくり団体
 - 12.2 同窓会
 - 2.5 その他（具体的に)
 - 36.9 どれにも加入していない
 - 2.4 わからない
- （2.0 無回答）

はじめに

平成 27 年 4 月 12 日に道府県と政令指定都市において、また 4 月 26 日には市区町村において、第 18 回統一地方選挙（以下、統一地方選挙を「統一選」という）が実施された。

昭和 22 年 4 月の第 1 回地方選挙では、戦後の新しい地方自治制度の発足に伴い、全ての地方公共団体の長と議員の選挙が全国一斉に実施されたが、その後の市町村の合併、長の死亡や辞職、議会の解散などにより、統一選で行われる選挙の全地方選挙に占める割合（統一率）は下がってきている。特に前回は東日本大震災の影響で統一率が 29.7%から 27.4%に減少したが、今回は、全国 1,788 の地方公共団体のうち 13.3%に当たる 237 団体で首長選挙が、41.8%に当たる 747 団体で議員選挙が実施され、統一選の執行件数（無投票を含む）は、前回の 983 件から 984 件になり、統一率は 27.5%と前回とほぼ同じであった。

4 月 12 日に行われた知事選挙は、北海道、神奈川県、福井県、三重県、奈良県、鳥取県、島根県、徳島県、福岡県、大分県の 10 道県で、東京都と佐賀県が統一選から外れたため、二つ減少した。都道府県議会議員選挙は、前回と同様に岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都及び沖縄県の 6 都県を除く 41 道府県。指定都市は、熊本市が新たに加わり 20 市となり、うち市長選挙は前回と同様に札幌、相模原、静岡、浜松、広島 の 5 市、議会議員選挙は、仙台市、静岡市、北九州市が対象外となり、これら以外の 17 市で、名古屋市が統一選に復帰した。

4 月 26 日に行われた選挙は、一般市 770 市のうち市長選挙が 89、議会議員選挙が 295、23 特別区のうち区長選挙が 11、議員選挙が 21、928 町村のうち町村長選挙が 122、議員選挙が 373 であった。

表 1 地方公共団体数及び統一地方選挙執行件数

		18回(H27)	17回(H23)	増 減	執行率
都道府県	団体数	47	47	0	
	知 事	10	12	-2	21.3%
	議 員	41	41	0	87.2%
指定都市	団体数	20	19	1	
	市 長	5	5	0	25.0%
	議 員	17	15	2	85.0%
市	団体数	770	767	3	
	市 長	89	88	1	11.6%
	議 員	295	293	2	38.3%
特別区	団体数	23	23	0	
	区 長	11	13	-2	47.8%
	議 員	21	21	0	91.3%
町 村	団体数	928	938	10	
	町村長	122	121	1	13.1%
	議 員	373	374	-1	40.2%
合 計	団体数	1788	1794	-5	
	長	237	239	-2	13.3%
	議 員	747	744	3	41.8%
	合計(長+議員)	984	983	1	27.5%

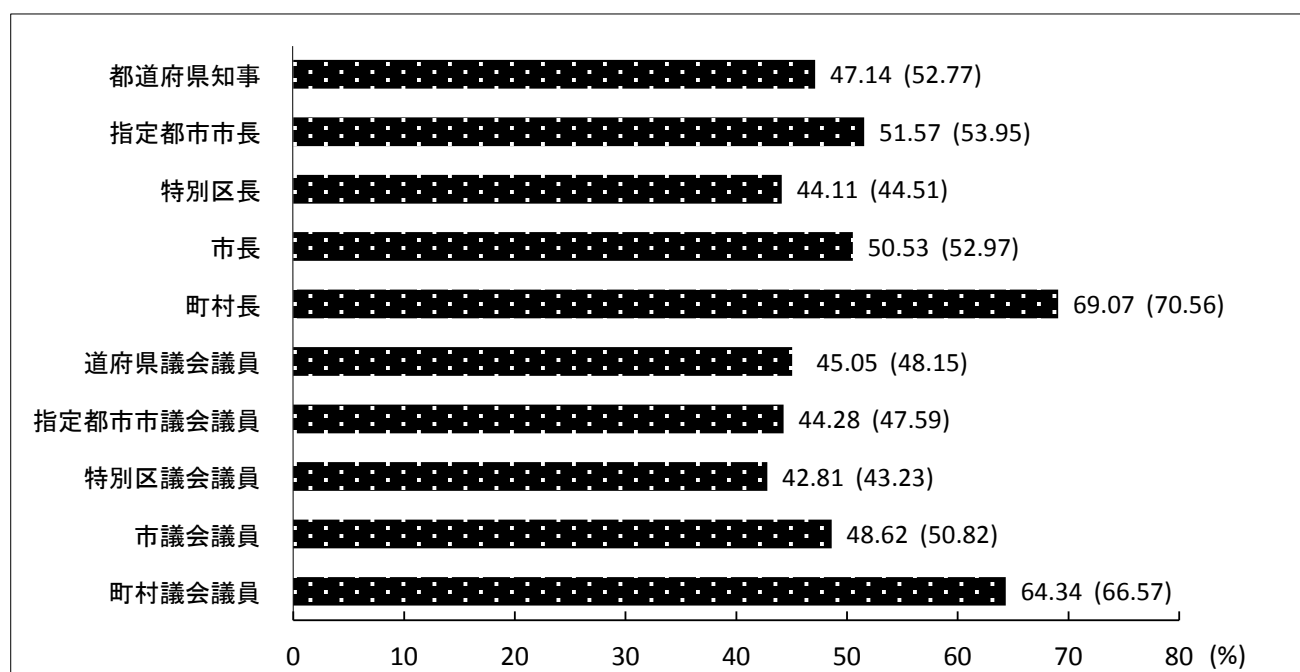
投票率・選挙競争率

(1) 投票率

まず、今回の統一選における投票率¹を選挙の種類別に見てみると、図1のとおりで、最も高かったのは町村長選の69.07%、次いで町村議選の64.34%、逆に低かったのは、特別区議選(42.81%)、特別区長選(44.11%)であった。都市化があまり進んでいないところほど投票率が高いということが読み取れ、これまでの傾向と変わりはない。

過去の投票率と対比すると(図2~4)、全ての種類の選挙で前回を下回った。統一選の投票率はこれまでも長期低落傾向を続けてきたが、今回は、特別区長選以外の選挙は過去最低となった。特に都道府県知事選は前回から5.63ポイント下回り、5割を割り込んだ(47.14%)。

図1 第18回統一選の投票率



* () 内は前回の投票率

¹ 各選挙実施団体の投票者数の合計を、同団体の選挙当日有権者数の合計で割って算出

図2 統一選における投票率(首長・議員)の推移

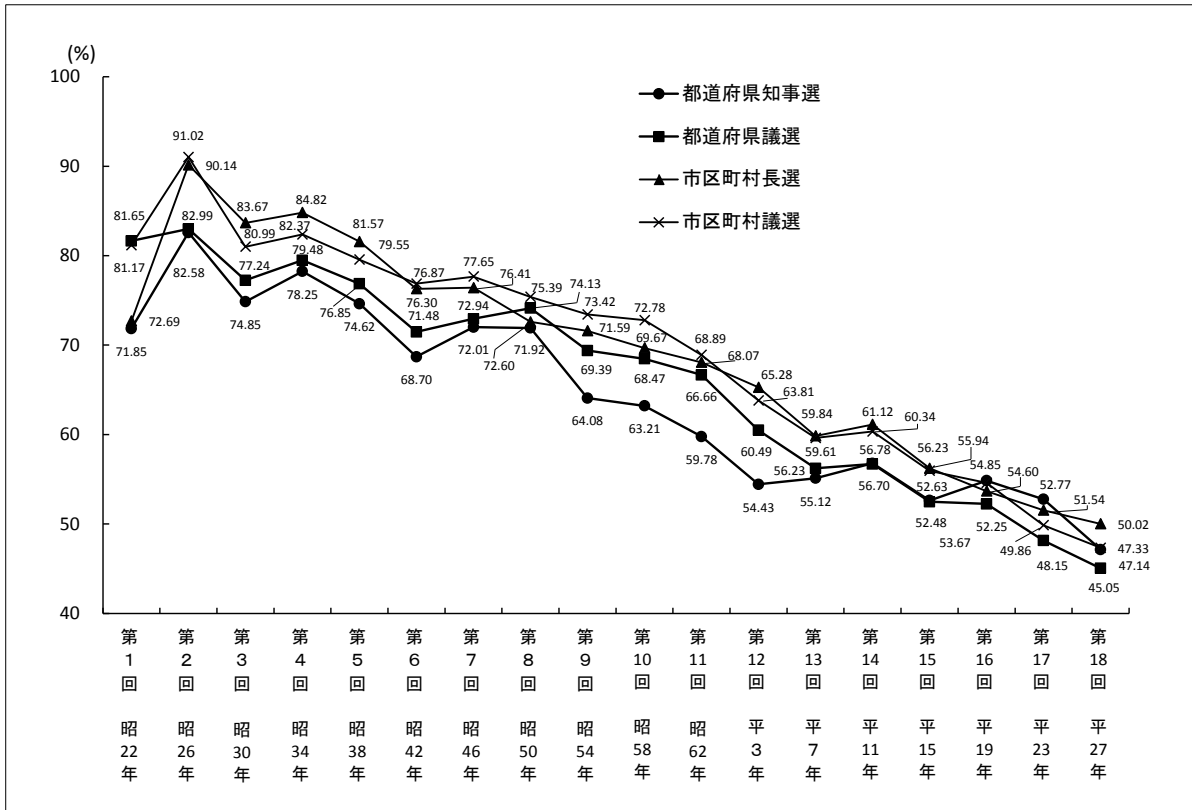


図3 統一選における投票率(首長選挙)の推移

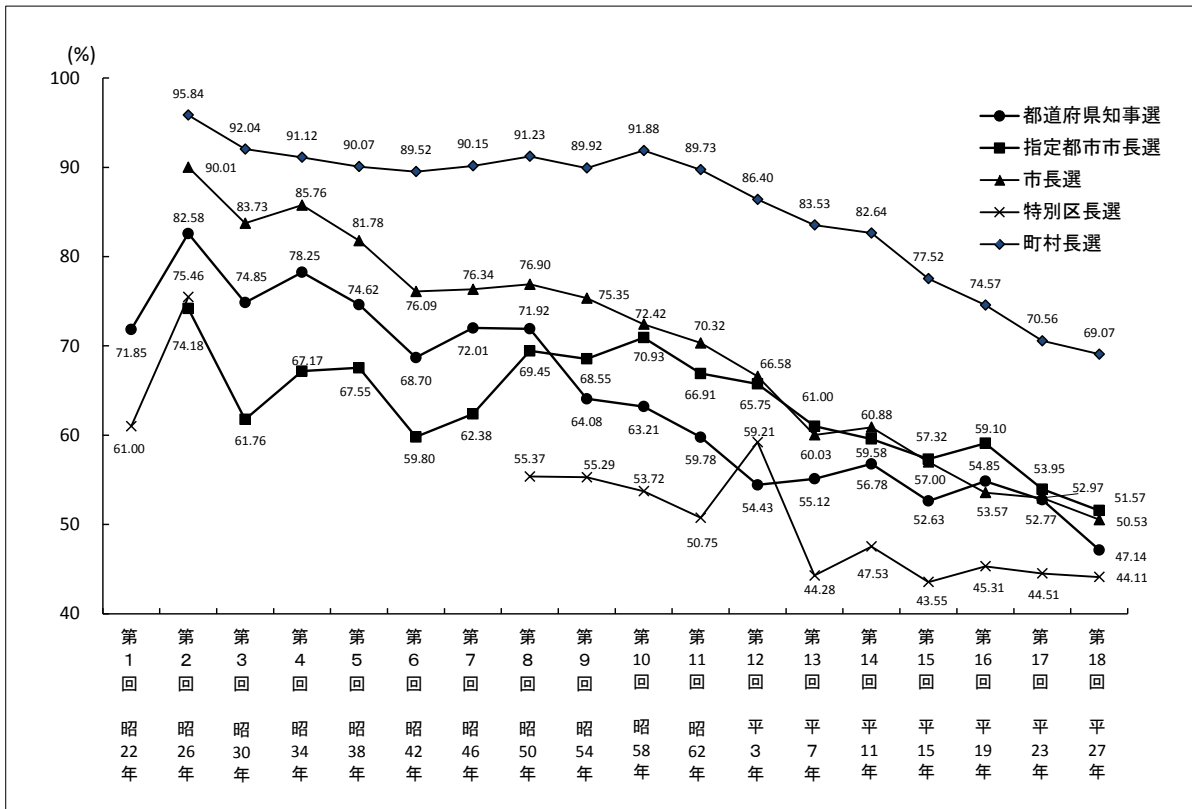
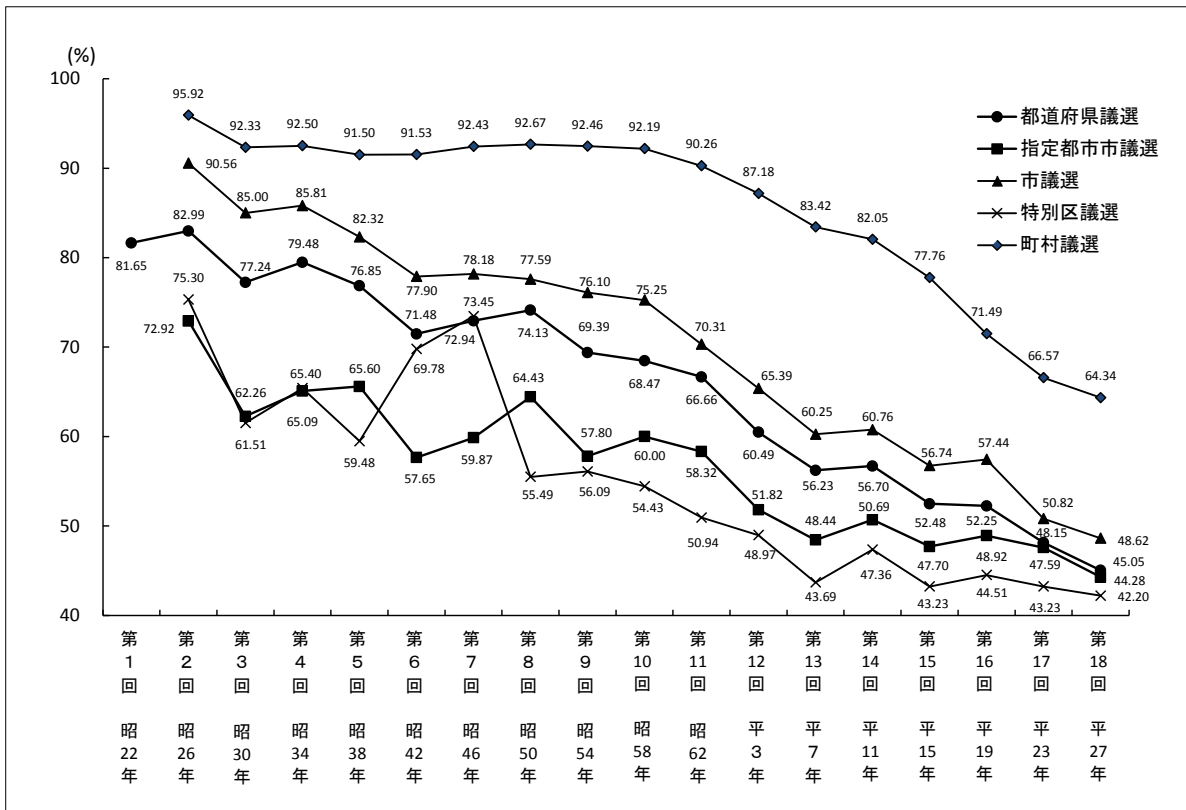


図4 統一選における投票率(議員選挙)の推移



(2) 選挙競争率

今回の統一選における平均競争率(立候補者数を改選定数で割った値)を選挙の種類別に見ると(表2)、前回との対比では、全体的には前回(1.27)とほぼ同じ競争率(1.26)であるが、指定都市市長選で競争率が上がったのに対し、道府県知事選では下がっている。

無投票当選率は、前回の9.4%より2.0ポイント上昇しており、特に市長選は17.0%から30.3%へ大幅に上昇している。

表2 競争率

	改選定数	立候補者数	競争率(前回)	無投票当選者数	無投票当選率(前回)	
首長選挙	道府県知事	10	25	2.50(3.25)	0	0.0%(0.0%)
	指定都市市長	5	17	3.40(3.00)	0	0.0%(0.0%)
	特別区長	11	32	2.91(3.54)	0	0.0%(0.0%)
	市長	89	179	2.01(2.31)	27	30.3%(17.0%)
	町村長	122	199	1.63(1.66)	53	43.4%(47.9%)
議員選挙	道府県議会	2,284	3,272	1.43(1.48)	501	21.9%(17.6%)
	指定都市市議会	1,022	1,476	1.44(1.47)	17	1.6%(0.0%)
	特別区議会	817	1,135	1.39(1.42)	0	0.0%(0.0%)
	市議会	6,865	8,383	1.22(1.21)	246	2.5%(1.6%)
	町村議会	4,269	4,832	1.13(1.14)	930	21.8%(20.2%)
合計	首長選挙	237	452	1.91(2.11)	80	33.8%(31.0%)
	議員選挙	15,257	19,098	1.25(1.26)	1,694	11.1%(9.1%)
	合計	15,494	19,550	1.26(1.27)	1,774	11.4%(9.4%)

調査結果の概要

以下は本調査に基づく分析結果である。

これまで統一選の意識調査は、面接調査法で実施してきたが、今回は郵送調査法により実施した。

回収率は下記の通り、近年の調査では最も高い結果となった。特に、それまで4割程度であった20歳代の回収率が6割以上となっている。自分のペースで回答できる郵送調査法が、特に20歳代の若者に受け入れられたと捉えることもできる。

	回収率		
	第18回統一選 (郵送調査法)	第17回統一選 (面接調査法)	第16回統一選 (面接調査法)
全体	75.1	63.7	61.2
20歳代	66.2	43.1	39.9
30歳代	67.9	53.6	53.0
40歳代	70.8	66.4	60.6
50歳代	77.8	64.6	61.9
60歳代	83.6	75.5	70.6
70歳代	81.8	74.2	75.3
80歳以上	68.9	58.8	61.1

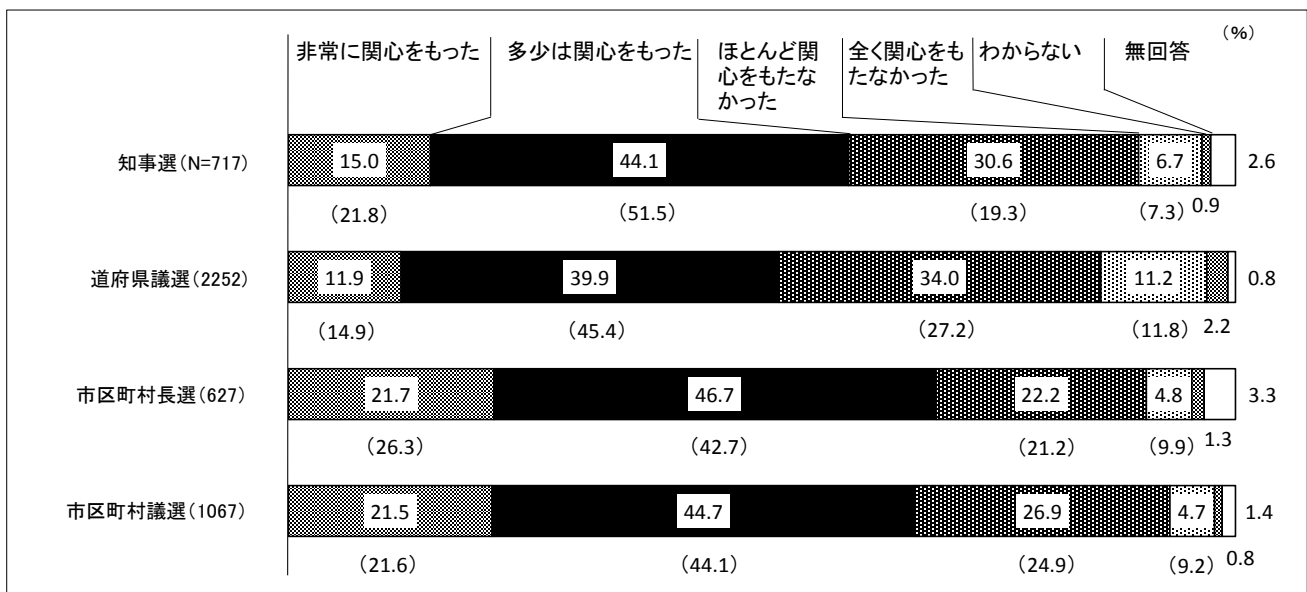
冒頭の「はしがき」でも述べている通り、以下の分析ではこれまで尋ねてきた質問の回答結果を時系列にグラフなどで表しているが、今回は調査方法が変わっている点を特に留意して見る必要がある。

1 選挙関心度

本調査では、今回の統一選で行われた知事選、道府県議選、市区町村長選、市区町村議選について、その選挙が行われた地域の対象者に対してそれぞれの選挙への関心度を尋ねている。図5はその結果を選挙の種類別に対比したものである。

「非常に関心を持った」という回答が最も多いのは、市区町村長選の21.7%（前回は26.3%）、次いで市区町村議選の21.5%（前回は21.6%）、知事選の15.0%（前回は21.8%）である。「非常に関心をもった」と「多少は関心をもった」をあわせた回答者の割合が多いのは、市区町村長選の68.4%（前回は69.0%）、市区町村議選の66.2%（前回は65.7%）、知事選の59.1%（前回は73.3%）である。道府県議選に関しては、「非常に関心をもった」が11.9%（前回は14.9%）、「多少は関心をもった」が39.9%（前回は45.4%）、合計51.8%（前回は60.3%）で他の選挙に比べて低く、逆に「ほとんど関心を持たなかった」、「全く関心を持たなかった」という回答が他の選挙に比べて多い。前回に比べると、全般的に選挙への関心度は低下しているが、特に知事選での関心度が大きく低下している。これは東京都知事選が今回の統一選から外れたことが要因の一つになっているのではないと思われる。

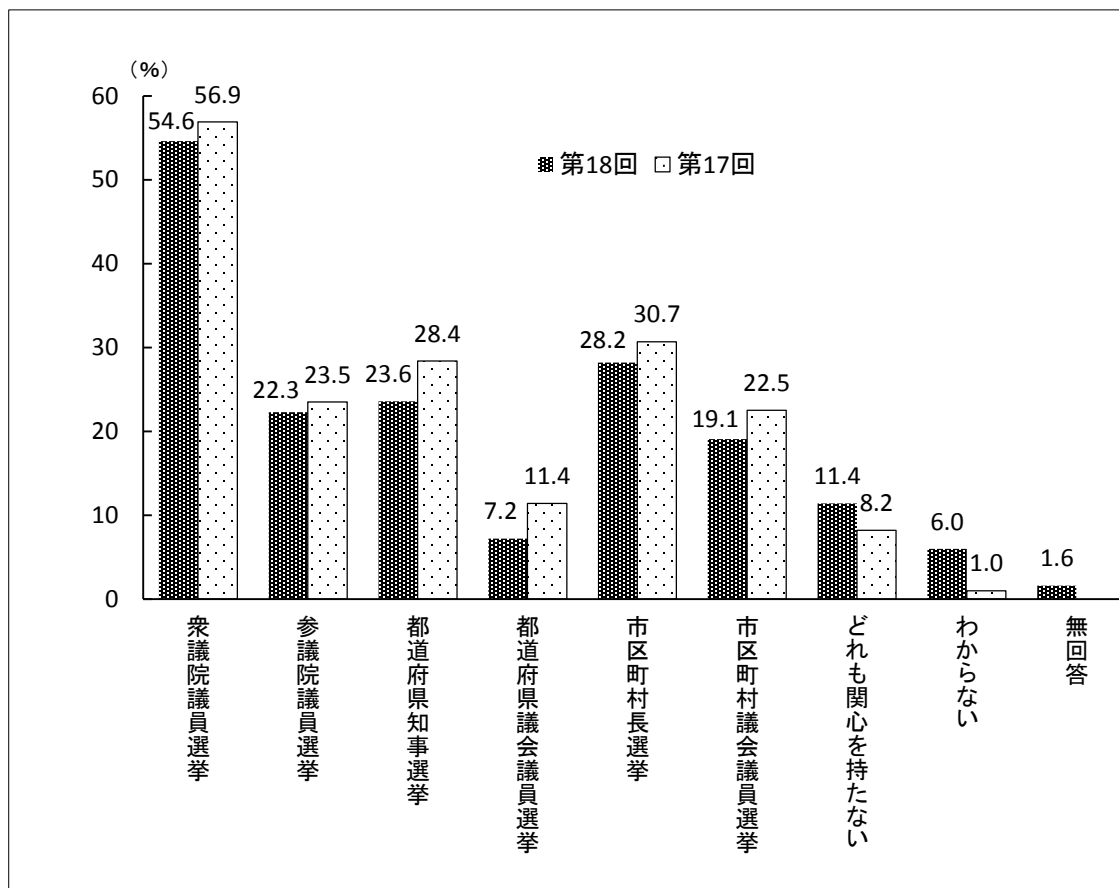
図5 第18回統一選挙への関心度



* () 内は前回の関心度

次に、国政選挙も含めて、「下記（6つ）の選挙の中で、あなたが特に関心をお持ちになる選挙を2つ選んでください」という質問を行っている。その回答は図6のとおりである。最も関心が高いのは衆議院議員選挙で、過半数の人（54.6%（前回56.9%））が関心を持っている。同じ国政選挙でも、参議院議員選挙に言及した人は2割を超えた程度（22.3%（前回23.5%））に過ぎない。地方選挙に関しては、これまでと同じく、都道府県に比べ市区町村の選挙の関心が高く、また、議員選に比べ首長選の関心が高いという傾向が読み取れる。ただ、前回の調査と比べるとすべての種類の選挙で関心を低下させている。

図6 関心のある選挙(前回比)



2 投票 - 棄権の選択

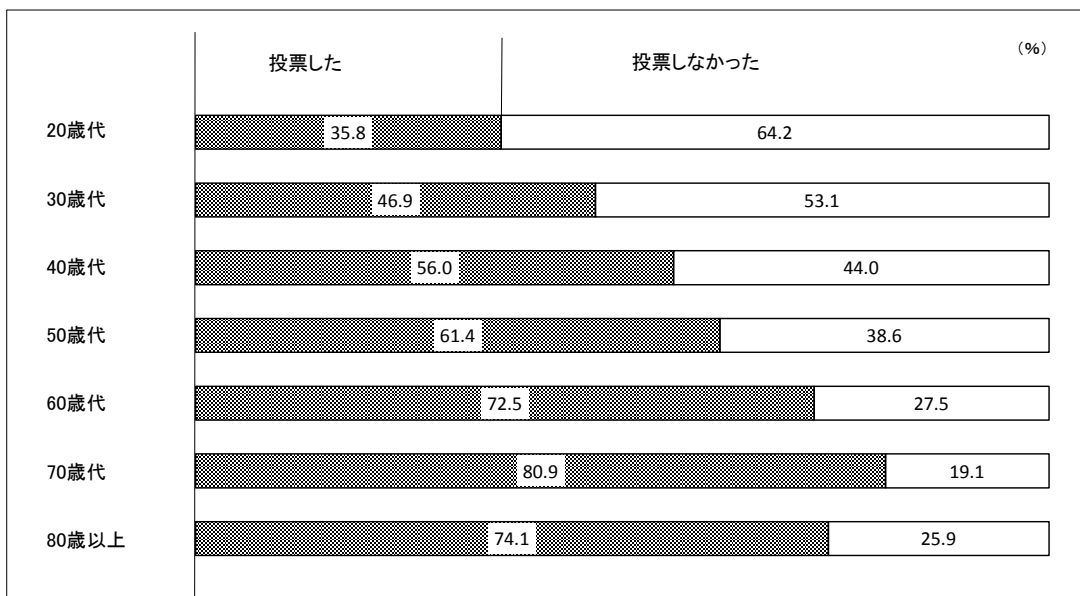
(1) 社会的属性による相違

次に、今回の統一選の中で全国的に最も広い区域で執行された道府県議選に焦点を当て、投票するか棄権するかを選択に対する社会的属性の影響について見てみる。なお、どれほど質の高い世論調査でも、「投票した」と回答する割合は、実際の投票率よりもいくらか高い傾向がある。今回の道府県議選では、回答者の 59.2% (前回 62.2%) が投票したと回答しているが、実際の投票率は 45.05% (前回 48.15%) だったので、前回調査と同じく約 14 ポイントの乖離がある。本報告書では、「投票した」と回答した人の割合を「投票参加率」と呼ぶこととし、実際の「投票率」とは区分する。なお、無投票地域の回答者は外して計算している。

①年代別

まず、年代別の投票参加率を見ると (図 7)、20 歳代の投票参加率が最も低く (35.8%)、年齢が上昇するに従って投票参加率も上昇し 70 歳代でピーク (80.9%) を迎える。

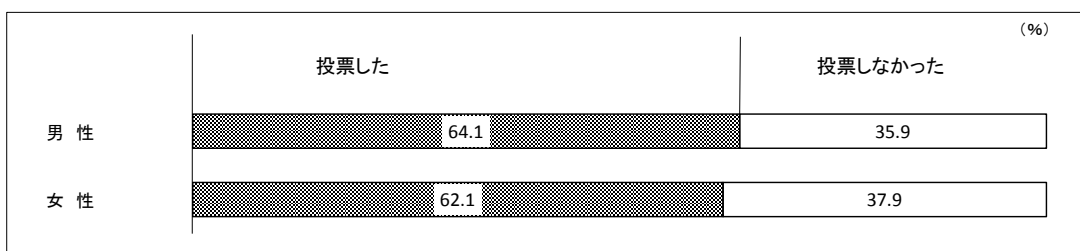
図 7 年代別投票参加率



②性別

性別に関しては、男性の 64.1% (前回は 72.5%)、女性の 62.1% (前回は 71.8%) が「投票した」と回答している。男性の方が若干高いが、統計的に有意な差ではない (図 8)。

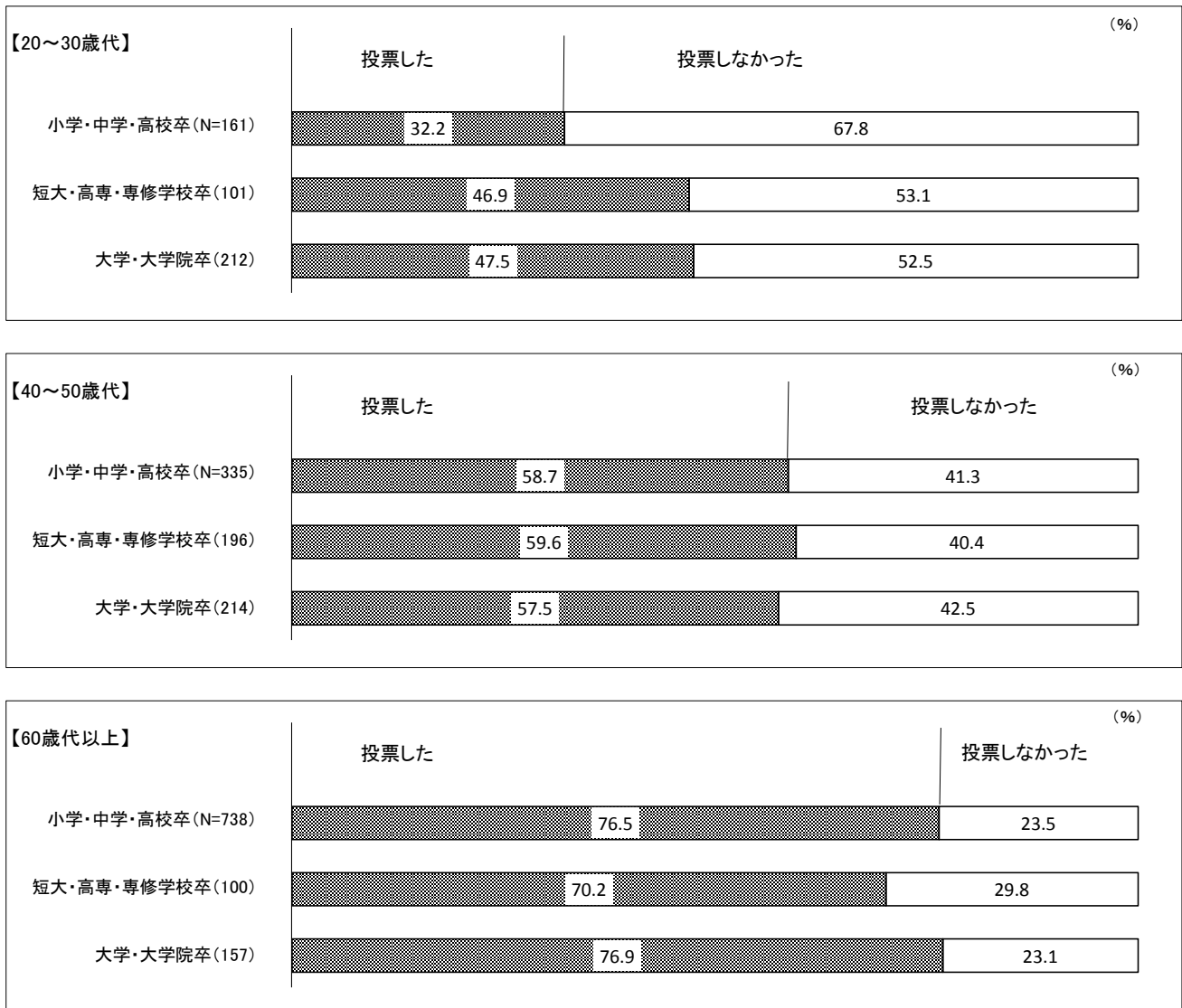
図 8 性別投票参加率



③学歴別

最終学歴の影響については、時代によって進学状況に大きな違いがあるので、年代別に見ることが大切である。そこで、「20～30歳代」、「40～50歳代」、「60歳以上」の3つに区分して最終学歴と投票参加率の違いを見てみた。前回の調査では、20～30歳代も学歴の差はほとんど見られなかったが、今回はそれ以前の調査結果と同じように、20～30歳代は「小学・中学・高校卒」の投票参加率が他に比べて低いという結果となっている。

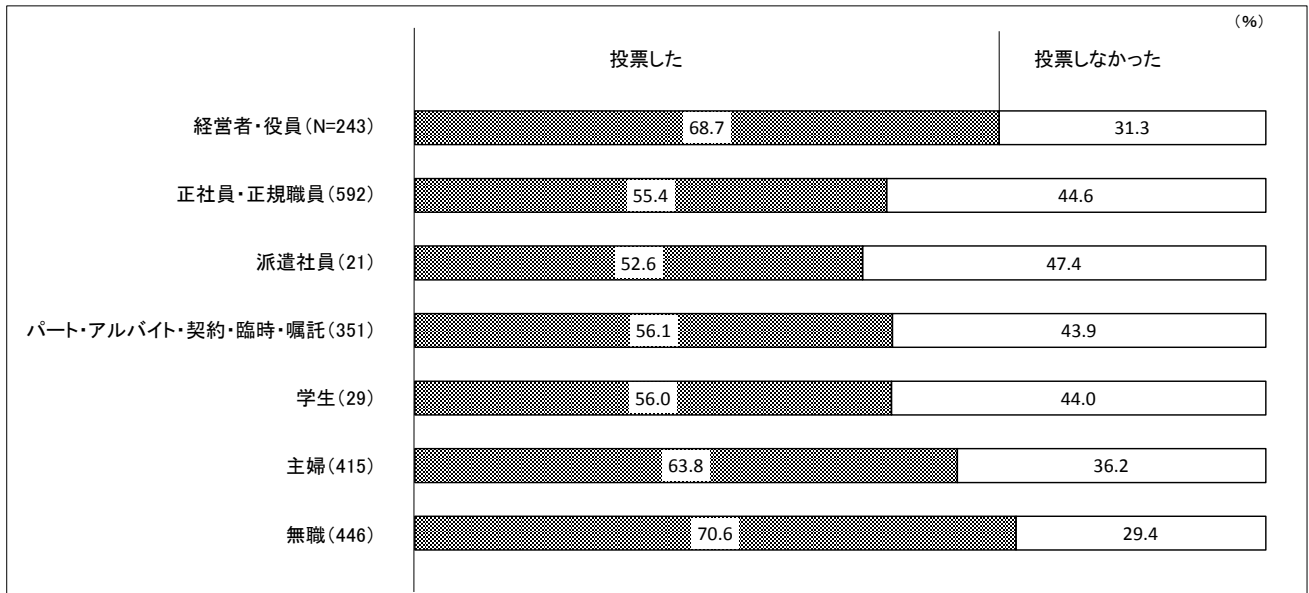
図9 年代・最終学歴別投票参加率



④職業別

職業との関係を見ると(図10)、前回調査と同じく、経営者・役員(68.7%)、主婦(63.8%)、無職(70.6%)の投票参加率が高いことがわかる。主婦の投票参加率が高いのは、暮らし全般を最も身近に感じているため、地方の政治・選挙への関心が強いからと考えられる。無職の人の投票参加率が高いのは、高齢の有権者を多く含んでいるからだと思われる(無職446名中、60歳以上は387名)。

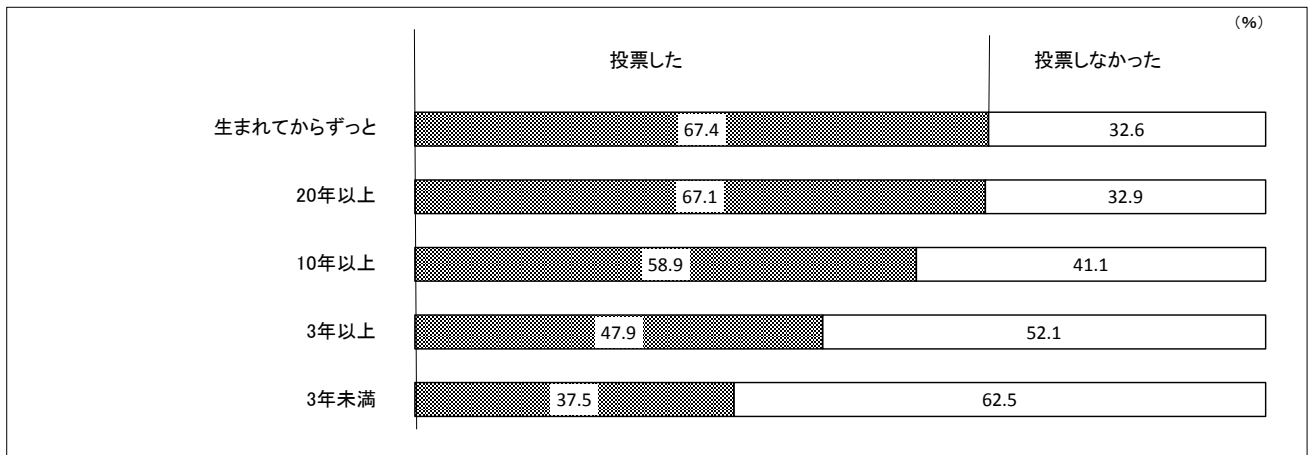
図10 職業別投票参加率



⑤居住年数別

現在住んでいる市(区・町・村)の居住年数の関係を見ると、居住年数が長いほど、投票参加率が高いということが確認できた(図11)。「生まれてからずっと」現在の居住市に住んでいる人の投票参加率は67.4%、及び「20年以上」現在の居住市に住んでいる人の投票参加率は67.1%と高く、次いで10年以上(58.9%)、3年以上(47.9%)となり、3年未満の人は37.5%であった。居住年数が短いと、地域社会との関係が薄く、地域の情報も十分でないために、身近な地方選挙では棄権する人が多くなると考えられる。

図11 居住年数と投票参加率



(2) 社会・政治意識の影響

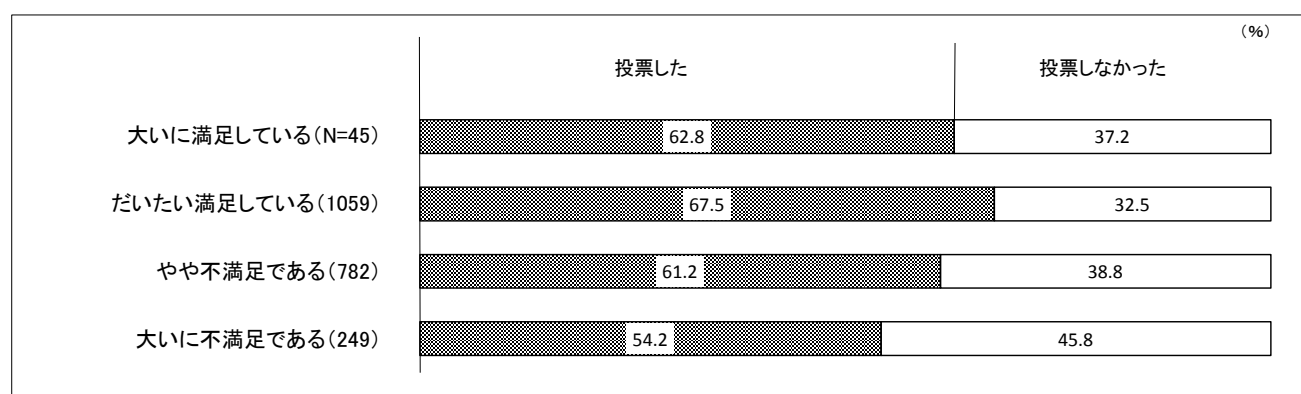
以下、社会や政治に対する意識が、投票一棄権の選択にどのような影響を与えるのかを見ることにする。

①生活満足度

本調査では、「あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか」という生活満足度に関する質問をしている。今回、「大いに満足している」と回答した人は2.0%、「だいたい満足している」は47.0%、「やや不満足である」は34.7%、「大いに不満足である」は11.1%であった。²

それぞれの選択肢への回答者の投票参加率を見ると、図12のとおりで、生活満足度が低いと投票参加率も低下する傾向がうかがわれ、特に「大いに不満足」と回答した人の投票参加率は他の人達より低い。

図12 生活満足度と投票参加率



² 前回まで選択肢の中に「どちらでもない」が含まれていたが、今回は含まずに尋ねたため、時系列の比較は行わなかった。

②政治関心度

本調査では、政治関心度について「あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心をもっていますか」という質問をしている。この質問に対する回答は図13のとおりで、前回に比べると「非常に関心を持っている」と回答した人の割合が減少している。これに「多少は関心を持っている」を加えた“関心がある層”を見ても前回に及ばない（今回75.4%、前回77.7%）。

それぞれの回答者の投票参加率は図14のとおりで、政治関心度が高い程、投票参加率も高いという正の相関は前回調査と変わらない。

図13 政治関心度

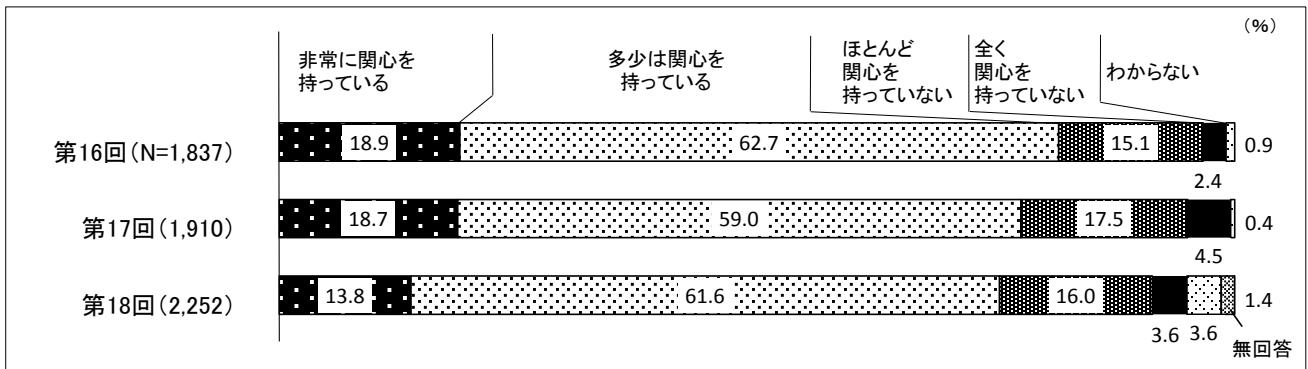
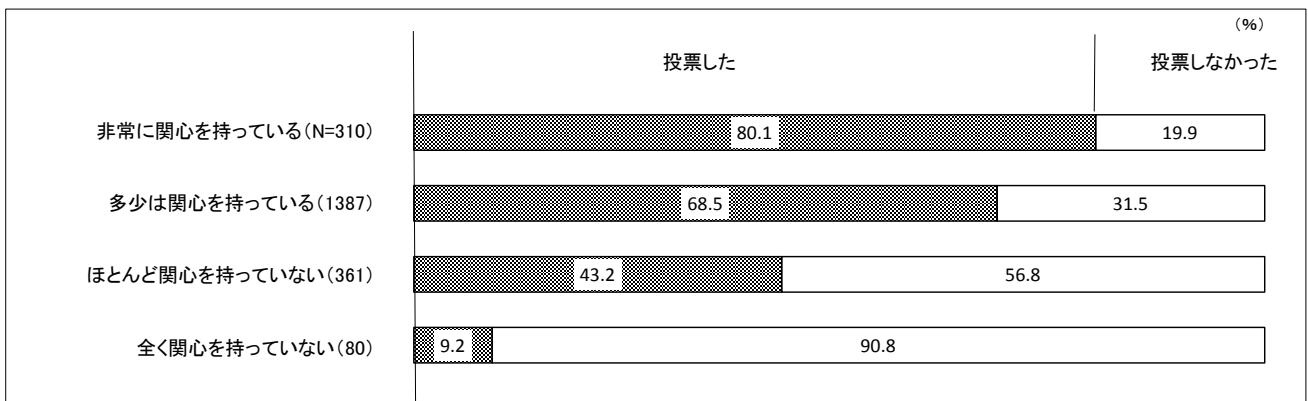


図14 政治関心度と投票参加率



3 政党支持と投票行動

本調査では、「あなたはふだん何党を支持していますか」と質問している。まず、各政党の支持率は表3のとおりで、「自民党」の支持率が34.3%と増加し、「支持政党なし」が37.9%に減少した。

表3 政党支持率 (％)

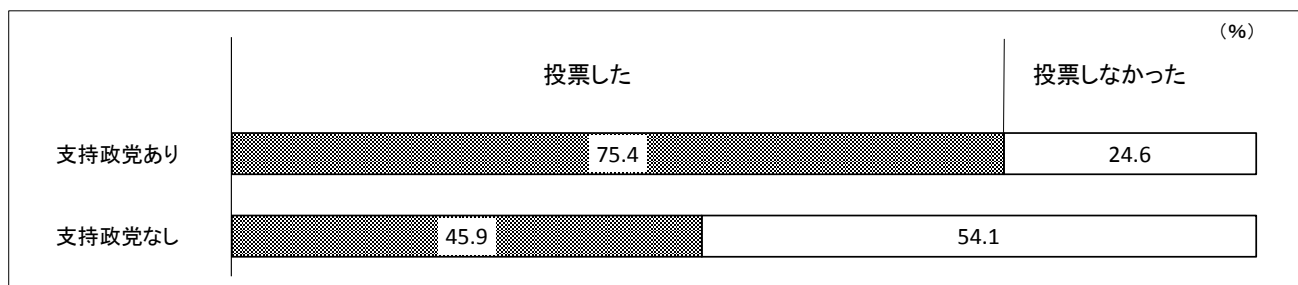
	第14回(平11)	第15回(平15)	第16回(平19)	第17回(平23)	第18回(平27)
自民党	26.9	27.9	29.2	22.5	34.3
民主党	5.0	4.5	10.2	12.8	9.9
維新の党	-	-	-	-	3.7
公明党	4.2	3.8	4.0	3.8	3.6
日本共産党	3.1	2.4	2.0	2.7	2.8
社会民主党	1.1	1.5	1.6	0.8	0.8
その他	0.0	0.3	0.2	1.7	0.7
支持政党なし	50.6	52.5	48.3	53.1	37.9
わからない	5.8	6.3	4.6	2.5	4.7

* 政党名は今回 1.0%以上の選択率があった政党とした。

但し、社会民主党は経年変化を見ることができるため掲載した。

支持政党がある人となない人の投票参加率を比較すると、図15のとおりで、両者の投票参加率には大きな違いがある。

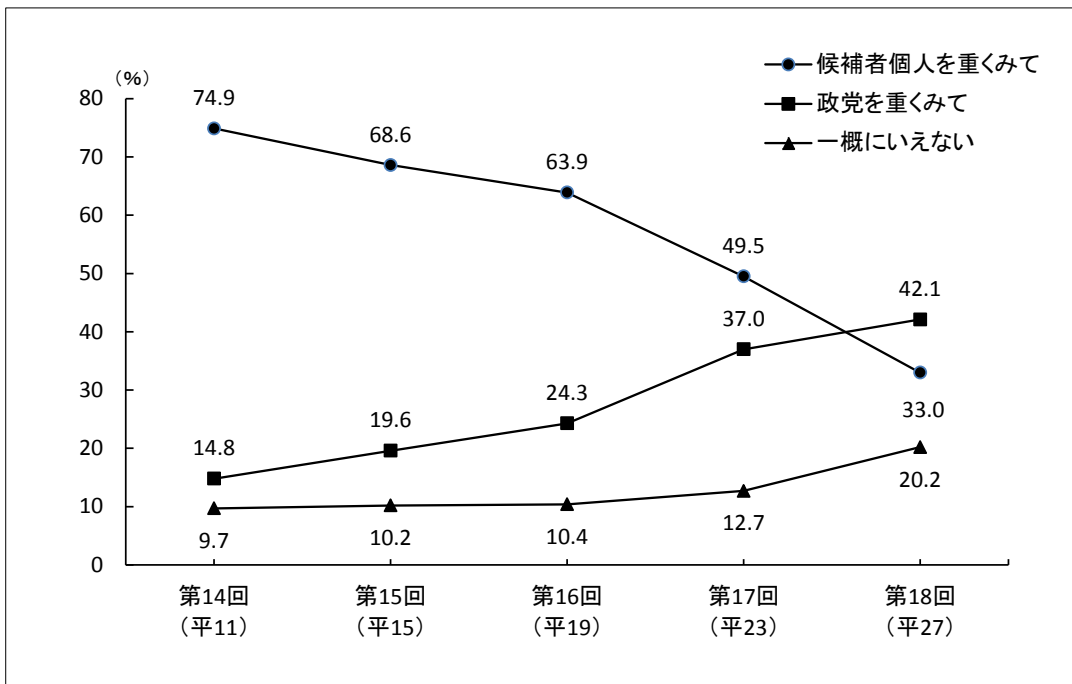
図15 支持政党の有無と投票参加率



次に、本調査では「投票した」と回答した人に「あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか」と尋ねている。その結果を時系列にまとめたのが図 16 である。

「候補者個人を重くみて」と回答した人は回を重ねるごとに減少しており、今回も前回より 16.5 ポイントと大幅に減少して 33.0%となった。一方「政党を重く見て」は今回調査でも 5.1 ポイント増加して 42.1%となり、初めて「候補者個人を重くみて」を上回った。「一概にいけない」は前回まで 10%程度あったが、今回は 7.5 ポイント増加して、2 割を超えた。これらの変化は、今回から調査方法が郵送調査に変わったことによる影響もあるのではないかと考えられる。

図 16 政党か候補者か(道府県議選)



*「わからない」は除いた

* 第 17 回までは面接調査、第 18 回(今回)は郵送調査による。

表 4 は、支持政党と道府県議選において投票した政党の関係を見たものである。自民党を支持政党にあげた回答者のうち、88.2%が自民党に投票している。すなわち、自民党支持者の歩留り率³は 88.2%であり、1.5%は民主党の候補者へ流れている。民主党支持者の歩留り率は 75.6%で、7.7%が自民党候補者へ流れており、前回調査（68.9%）よりも歩留り率は改善している。維新の党支持者の歩留り率は 78.0%となっている。公明党支持者は、前回 56.4%と低かったが、今回は 87.0%と前々回までの調査と同様の高い歩留り率となっている。11.6%は自民党へ流れているが、民主党への流出は前回調査同様に皆無である。共産党支持者の歩留りは 84.3%である。自民党支持者に次いで大きな塊である「支持政党なし」層の投票先は、自民党が 27.8%（前回 27.2%）、民主党が 14.6%（前回 18.0%）、無所属が 12.9%（前回 13.7%）となっている。

表 4 支持政党と投票政党

		投票政党										実数 (支持政党計)
		自由民主党	民主党	維新の党	公明党	日本共産党	社会民主党	その他	無所属	白票を入れた	わからない 無回答	
支持 政党	自由民主党	88.2	1.5	2.0	1.7	0.2	0.0	0.0	3.9	0.0	2.6	541
	民主党	7.7	75.6	3.6	1.8	1.8	0.6	0.6	4.8	0.0	3.6	168
	維新の党	10.0	2.0	78.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	50
	公明党	11.6	0.0	0.0	87.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	69
	日本共産党	3.9	0.0	3.9	0.0	84.3	0.0	0.0	7.8	0.0	0.0	51
	社会民主党	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	72.7	0.0	18.2	0.0	0.0	11
	その他の党	38.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	23.1	0.0	0.0	13
	支持政党なし	27.8	14.6	7.2	6.1	10.7	1.4	1.1	12.9	2.2	16.0	363
	わからない 無回答	30.9	20.6	5.9	7.4	1.5	0.0	0.0	7.4	0.0	26.5	68
実数(投票政党計)		632	203	88	101	89	14	10	90	8	99	

*「その他」の党には「次世代の党」、「生活の党と山本太郎となかまたち」も含まれる。

³ 支持する政党に投票した人の割合

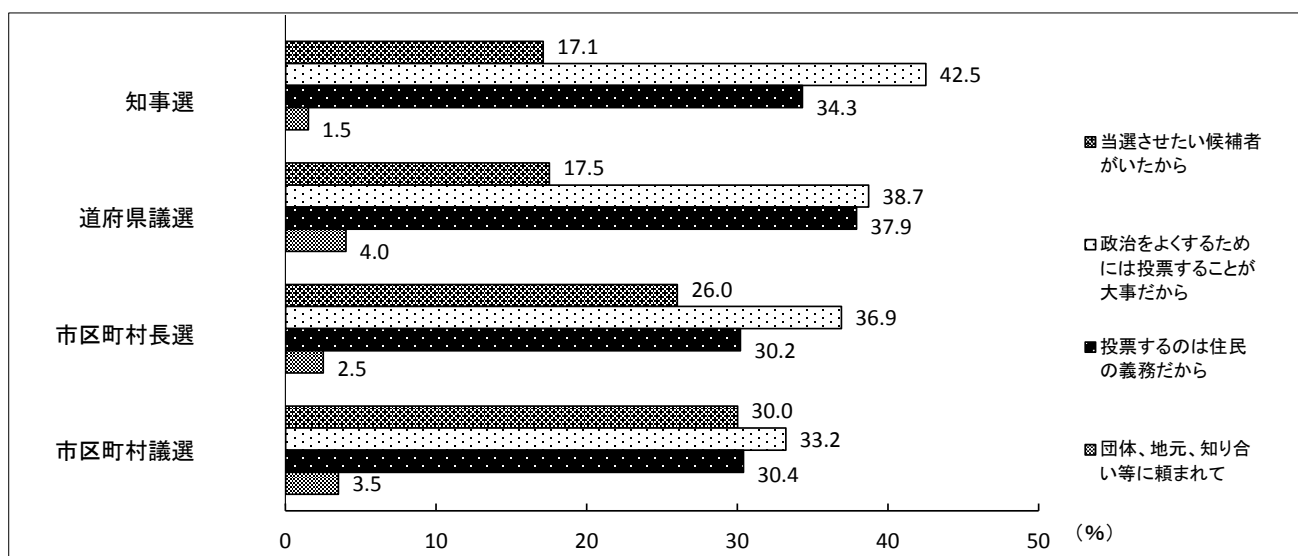
4 投票・棄権の理由、投票決定時期等

(1) 投票理由

本調査では、知事選、道府県議選、市区町村長選、市区町村議選のそれぞれについて、「〇〇選挙で投票したのはどういう気持ちからですか」という質問を行い、その答えとして6項目の中から1つだけ選んでもらっている。その回答をグラフにまとめたのが図17である。

知事選、道府県議選、市区町村長選、市区町村議選とも投票理由は、「政治をよくするためには投票することが大事だから」が最も多く、次いで「投票するのは住民の義務だから」が続く。市区町村長選や市区町村議選では「当選させたい候補者がいたから」の回答が知事選や道府県議選と比べると高い。

図17 投票理由



(2) 棄権理由

次に、棄権した理由を選挙の種類別に見たのが表5である。これは、知事選と道府県議選の棄権者に、「〇〇選挙で投票に行かなかったのはなぜですか」と尋ね、13項目から当てはまるもの全てを選んでもらった結果をまとめたものである。知事選の棄権理由として最も選択率が高かったのは「仕事があったから」と「選挙にあまり関心がなかったから」の22.1%、次いで「選挙結果が予想できる無風選挙であったから」の18.4%、「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」の16.6%であった。「選挙結果が予想できる無風選挙であったから」は前回5.7%から18.4%と大きく増加している。一方、道府県議選の棄権理由では「選挙にあまり関心がなかったから」の33.9%が最も高く、次いで「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」の26.5%、「仕事があったから」の25.0%が続く。「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」は前回の14.8%から26.5%と大きく増加している。

表5 棄権の理由

(%)

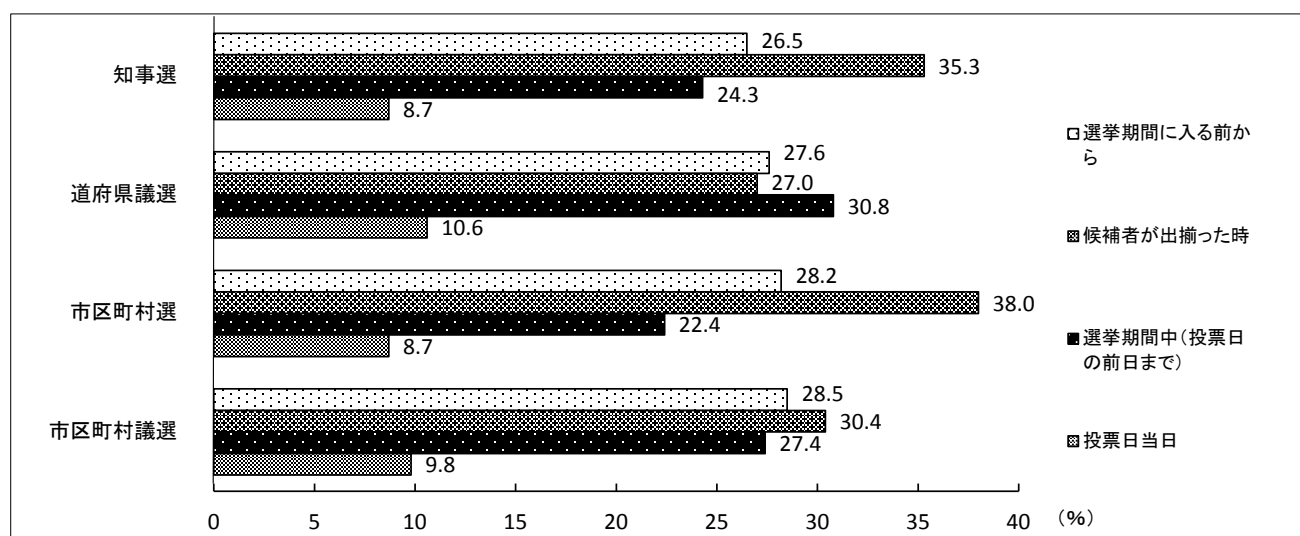
	知事選		道府県議選	
	17回 (H23)	18回 (H27)	17回 (H23)	18回 (H27)
仕事があったから	29.5	22.1	24.6	25.0
重要な用事(仕事を除く)があったから	15.9	10.1	14.1	8.7
病気だったから	3.4	※	3.6	※
体調がすぐれなかったから	8.5	15.7	7.9	12.4
投票所が遠かったから	-	3.7	1.0	3.1
面倒だから	6.8	※	8.4	※
選挙にあまり関心がなかったから	23.9	22.1	32.7	33.9
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	14.2	16.6	14.8	26.5
支持する政党の候補者がいなかったから	※	8.3	※	8.1
適当な候補者がいなかったから	17.0	13.8	16.5	19.2
私一人が投票してもしなくても同じだから	5.1	7.8	6.0	9.6
今の政治を変えなくてもいいと思ったから	※	1.4	※	0.6
選挙結果が予想できる無風選挙であったから	5.7	18.4	1.7	7.2
選挙によって政治はよくならないと思ったから	7.4	7.4	10.7	13.8
今住んでいる所に選挙権がないから	-	1.4	0.5	1.8
棄権者数	176	217	419	781

※:調査をしていない項目

(3) 投票決定時期

特定の候補者に投票するのを決めたのはいつ頃であったのかを尋ねた質問に対する回答を、選挙の種類ごとに見たものが図18である。どの選挙についても、「選挙期間に入る前から」あるいは遅くとも「候補者が出揃った時」には、2分の1以上の人々が誰に投票するか決めている。前回調査では、「選挙期間に入る前から」決めていた人が多く、特に議員選挙は4割を超えていたが、今回は3割弱に減少しており、「選挙期間中」に決めている人が増加している（前回調査は道府県議選23.1%、市区町村議選22.3%）。

図18 投票決定時期



5 選挙で考慮した政策課題

本調査では、知事選、道府県議選に投票した人に「〇〇選挙で、あなたはどのような政策課題を考慮しましたか」と質問し、17項目から当てはまるもの全てを選択してもらった(表6)。知事選、道府県議選とも、最も選択率が高かった項目は「医療・介護」、次に高いのが「高齢化対策」で「景気・雇用」「教育」がこれに続いている。

前回と対比すると、「医療・介護」は前回同様第1位ではあったが、2位「景気・雇用」と3位「高齢化対策」が逆転した。全体的に各政策課題の選択率が上昇している。調査方法が変わったことによる影響かも知れない。選択肢「原発・エネルギー」は前回の「資源エネルギー」を変えて、今回の調査で初めて加えたが、選択率は知事選で16.9%、道府県議選で14.9%であった。同じく初めて選択肢に加えた「地域創生」の選択率は、知事選で14.7%、道府県議選で13.0%であった。

表6 考慮した政策課題

(%)

	知事選		道府県議選	
	17回(H23)	18回(H27)	17回(H23)	18回(H27)
医療・介護	39.4	52.9	41.0	55.1
教育	22.3	24.5	17.4	24.3
景気・雇用	38.7	45.3	38.1	43.6
少子化対策	11.8	20.8	11.4	19.2
高齢化対策	34.9	51.0	30.5	47.6
災害対策	17.8	20.6	13.8	19.0
治安対策	7.3	9.3	4.6	8.4
地方議会の改革	6.2	9.1	7.9	9.1
地方自治のあり方	11.2	15.2	10.5	11.2
地方の行財政改革	9.8	14.8	10.6	11.9
地方の財政再建	7.7	※	8.5	※
中小企業対策	7.3	11.1	7.3	8.1
農林水産業の振興	4.1	8.9	5.1	7.8
社会資本整備	4.8	3.0	2.9	2.9
環境対策	17.3	13.4	11.4	11.9
原発・エネルギー(前は「資源エネルギー」)	7.7	16.9	5.2	14.9
地方創生	※	14.7	※	13.0
食糧	4.6	※	3.5	※
税金	31.0	※	27.2	※
地域振興	10.9	※	16.2	※
年金	32.6	※	30.6	※
国政の動向	13.0	6.5	10.9	10.5

※：調査をしていない項目

これを20～30歳代、40～50歳代、60歳以上と年代別に見たのが表7の(1)及び(2)である。

(1)の知事選を見てみると、20～30歳代で最も選択率が高いのは「景気・雇用」、次いで「教育」、「医療・介護」と続く。中年層である40～50歳代では同じく「景気・雇用」が最も高く、「医療・介護」、「教育」と続く。60歳以上の高年層ではこれらと異なり、「高齢化対策」が第1位で、次いで「医療・介護」「景気・雇用」と続いており、20～30歳代及び40～50歳代で第1位だった「景気・雇用」は第3位に後退している。

(2)の道府県議選においては、20～30歳代の2位と3位が知事選と逆になっている。40～50歳代、60歳以上は知事選と同じになっている。

表7 年代別考慮した問題(上位5位)

(1)知事選

(%)

	20～30歳代		40～50歳代		60歳以上	
1	景気・雇用	47.6	景気・雇用	53.6	高齢化対策	66.6
2	教育	33.3	医療・介護	36.6	医療・介護	64.7
3	医療・介護	31.7	教育	33.3	景気・雇用	40.9
4	少子化対策	30.2	高齢化対策	32.7	少子化対策	21.4
5	高齢化対策	15.9	災害対策	20.9	災害対策	21.4
	回答者数	63	回答者数	153	回答者数	323

(2)道府県議選

(%)

	20～30歳代		40～50歳代		60歳以上	
1	景気・雇用	44.2	景気・雇用	53.9	高齢化対策	65.4
2	医療・介護	40.0	医療・介護	43.7	医療・介護	62.8
3	教育	37.4	教育	33.5	景気・雇用	37.7
4	少子化対策	25.3	高齢化対策	32.5	少子化対策	19.7
5	高齢化対策	19.5	災害対策	18.4	災害対策	18.9
	回答者数	190	回答者数	412	回答者数	732

6 選挙関連情報への接触度と有効度

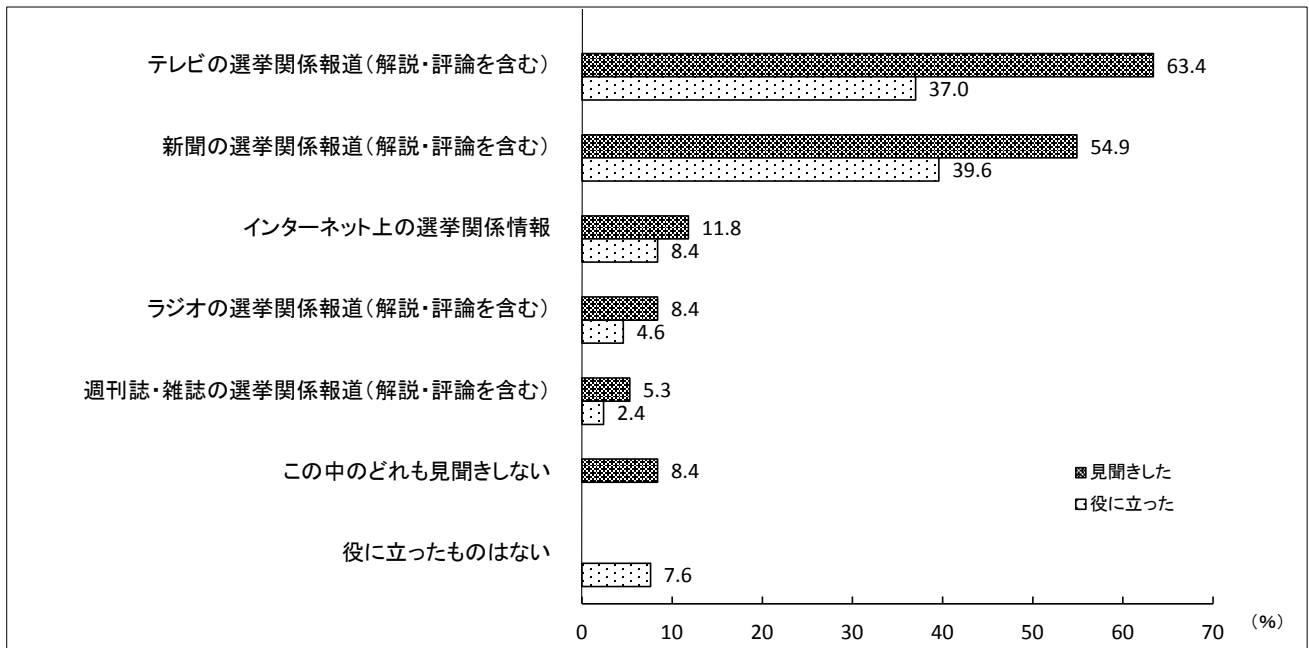
(1) 選挙報道等

本調査では、マスメディアの選挙報道について、「あなたは今回の統一地方選挙で投票日より前に行われた下記の報道などを見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたものがあればすべて選んでA欄に○をつけてください」（回答者数 2,252）と尋ねたうえで、次に、「その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでB欄に○をつけてください」（回答者数 1,764）と質問している。

その結果は、図 19 のとおりで、選挙報道への接触については、テレビの 63.4%、次いで新聞の 54.9% が多い。それ以外の媒体については、インターネットが 11.8%、ラジオが 8.4%、週刊誌・雑誌が 5.3% で、テレビ、新聞に比べるとかなり少ないが、インターネットは前回（5.9%）に比べて倍増している。

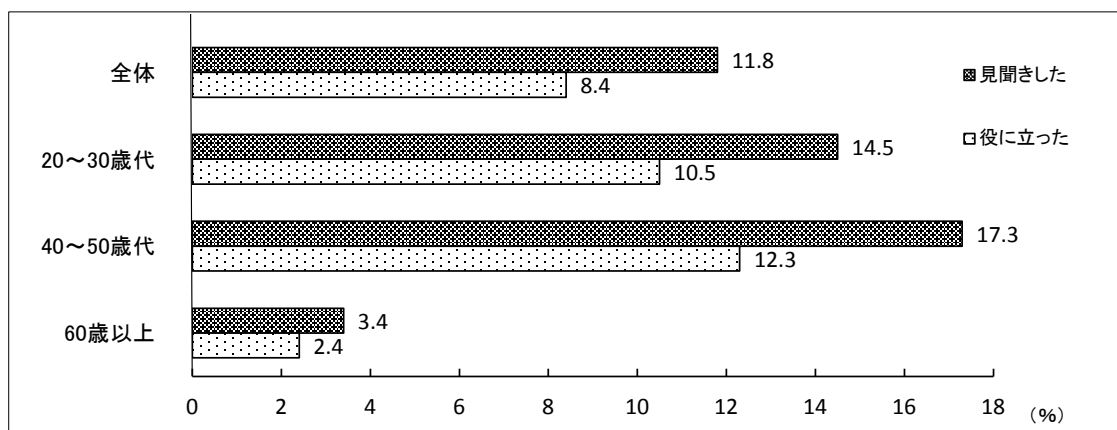
それらの媒体から得られた情報が役に立ったかどうかについては、前回調査と同じく新聞とテレビが逆転し、新聞が 39.6% で最も高く、テレビの 37.0% が続く。新聞、テレビ以外の媒体は接触度が低いので、「役に立った」という回答も少ない。

図 19 選挙報道への接触度と有効度



「インターネット上の選挙関係情報」についての接触状況等を各年代ごとにみた（図 20）。前回調査では 20～30 歳代が最も接触度が高かったが（全体が 5.9%の中で 20～30 歳代は接触度 13.1%、有用度 11.0%）、今回調査では 20～30 歳代よりも 40～50 歳代の接触度が高く、かつ「役に立った」という回答が多い。40～50 歳代の接触度は前回（接触度 6.1%、有用度 4.1%）から大きく伸びている。60 歳以上では接触度も「役に立った」という回答も、全体の半数以下となっている。

図 20 インターネット上の選挙関係情報への接触状況



ちなみに本調査では「あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか」と尋ねているが、この結果を年代別に見ると表 8 のとおりである。20～30 歳代は、スマートフォンからの利用が多いが、40～50 歳代に比べるとパソコンからの利用が少ない。

表 8 インターネットの接触状況

(%)

	パソコン	スマートフォン	タブレット	インターネットは使わない
20歳代	23.3	72.5	2.1	2.1
30歳代	25.5	66.4	4.9	3.1
40歳代	39.6	48.0	5.0	7.4
50歳代	50.0	25.8	4.9	19.2
60歳代	40.4	10.3	5.4	43.9
70歳代	20.3	2.9	2.9	74.0
80歳以上	7.8	1.6	0.0	90.7

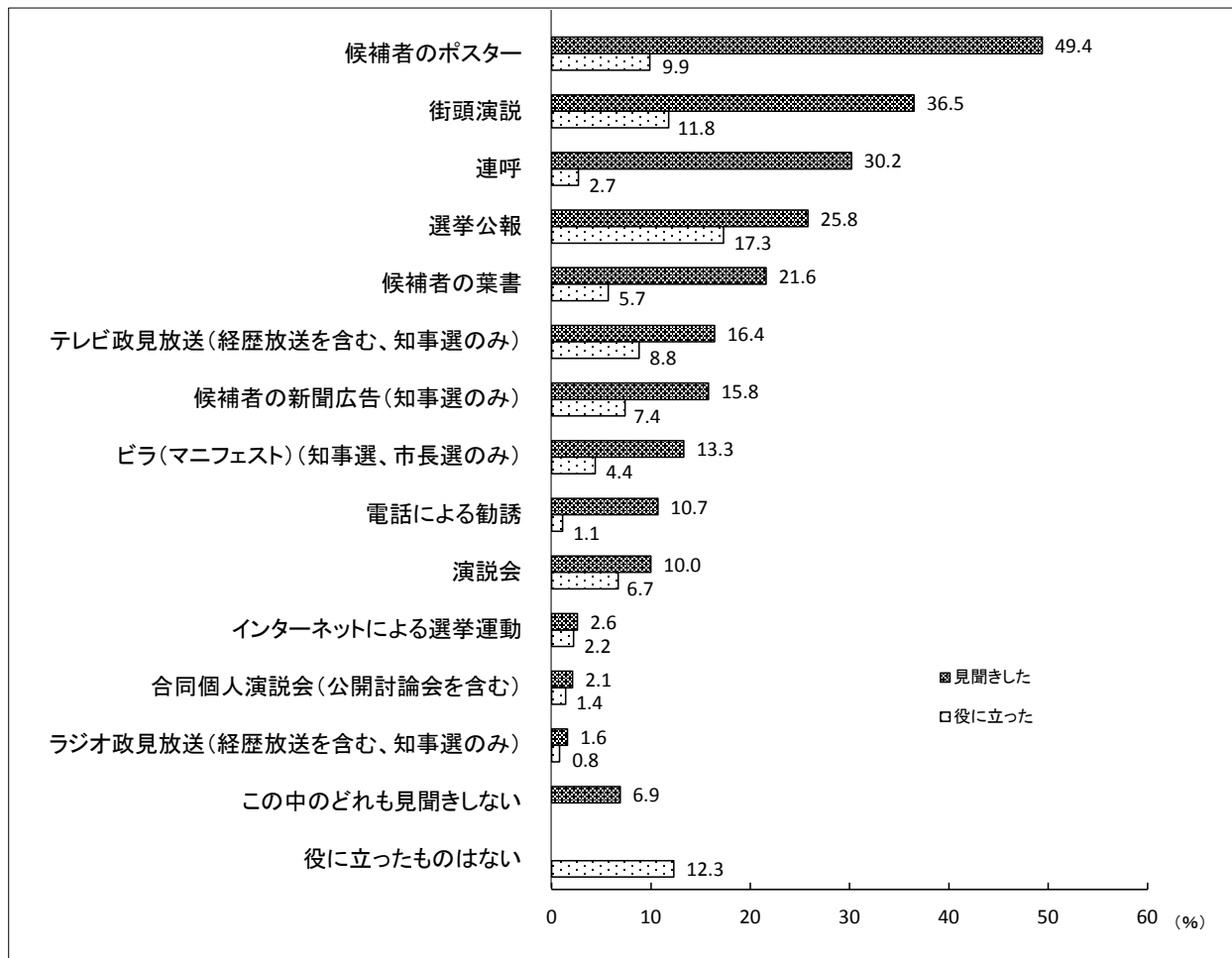
(2) 選挙運動等

次に、政党や候補者による情報提供について、選挙期間中に見たり聞いたりしたものと役に立ったものを、選挙報道とほぼ同様の質問で尋ねている。

その結果は図 21 のとおりで、見聞きしたものとして 20%以上の回答があったのは、「候補者のポスター」(49.4%)、「街頭演説」(36.5%)、「連呼」(30.2%)、「選挙公報」(25.8%)、「候補者の葉書」(21.6%)であった。前回に比べ、「候補者の新聞広告(知事選のみ)」(前回 28.1%→15.8%)、「候補者や政党(確認団体)のビラ(マニフェスト)」(前回 26.9%→13.3%)等が大きく減少している一方で、「候補者のポスター」(前回 37.6%→49.4%)、「街頭演説」(前回 22.0%→36.5%)は大幅に増加している。

それらが役に立ったかどうかについては、「役に立った」という回答が最も多かったのは「選挙公報」(17.3%)、次いで「街頭演説」(11.8%)であった。前回調査と同じく、接触度が高いものが必ずしも有効度が高いとは限らず、連呼、候補者の葉書、ポスターは、接触度は高いが、「役に立った」という人は、それぞれ 2.7%、5.7%、9.9%に止まった。有効度を前回と比べると、ほとんどの項目で「役に立った」と回答した人が減少している一方で、「役に立ったものはない」と回答した人は前回の 41.3%から 12.3%と大きく減少している。前回との調査方法の違いが影響したことも考えられる。

図 21 選挙運動等への接触度と有効度



(3) 選挙啓発媒体

総務省、都道府県・市区町村選挙管理委員会、明るい選挙推進協議会は、今回の統一選で「投票に参加しましょう」という呼びかけを行ったが、本調査ではそのような啓発活動の中から16項目を選んで、見たり聞いたりしたのものがあるかを尋ねた。表9は各項目の接触率を、全体（今回と前回）、及び年代別に分けてまとめた。今回、最も「見たり聞いたりした」と回答があったのが、「テレビスポット広告」(49.8%)、次いで「新聞広告」(42.8%)で、いずれも前回と同じく上位を占めた。その他、「見たり聞いたりした」回答が20%を超えたのは、「国や都道府県、市区町村の広報紙」(27.3%)、「啓発ポスター」(25.5%)であった。

前回と比べると、新聞広告（前回35.3%）、テレビスポット広告（38.4%）を始め、「有線放送」を除く全ての項目で接触度を上昇させており、逆に「見聞きしなかった」という回答は20.2%から8.8%へ減少している。

年代別に見ると、「新聞広告」、「国や都道府県、市区町村の広報紙」などの活字媒体は、中高年層の接触度が高く、逆に、「インターネット上での広告」、「交通広告」は若年層の接触度が高いことがみてとれる。

表9 見たり聞いたりした統一選啓発媒体

(%)

	20～30 歳代	40～50 歳代	60歳以上	全 体	
				今回	前回
新聞広告	23.3	38.8	54.8	42.8	35.3
テレビスポット広告	39.9	51.1	53.5	49.8	38.4
ラジオスポット広告	3.4	6.5	8.0	6.5	6.5
交通広告(車内・駅・バス)	16.4	11.5	8.7	11.2	6.1
雑誌広告(フリーペーパーを含む)	2.3	3.6	1.5	2.4	2.0
啓発ポスター・チラシ	23.7	26.8	25.3	25.5	22.8
国や都道府県、市区町村の広報紙	13.2	20.5	38.8	27.3	24.8
都道府県・市区町村の広報車	10.5	14.8	25.9	19.0	22.4
街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン	10.7	9.2	9.9	9.9	3.4
立看板、広告塔、たれまく、アドバルーン、電光掲示板	8.6	12.4	19.8	15.0	12.0
デパート、ショッピングセンター、遊園地などでのアナウンス	2.3	2.0	1.3	1.7	1.6
銀行などのATM	0.4	0.8	0.3	0.5	0.3
コンビニのレジ画面	1.1	1.1	0.4	0.8	0.7
有線放送	1.1	0.8	2.8	1.8	2.3
国、都道府県、市区町村のホームページ、SNS	3.8	2.4	1.0	2.0	1.4
インターネット上での広告(バナー、動画広告など)	9.5	6.4	1.9	5.0	2.6
その他	0.8	0.8	0.5	0.7	0.7
見聞きしなかった	16.0	9.1	5.4	8.8	20.2
わからない	13.7	11.1	6.2	9.4	1.9

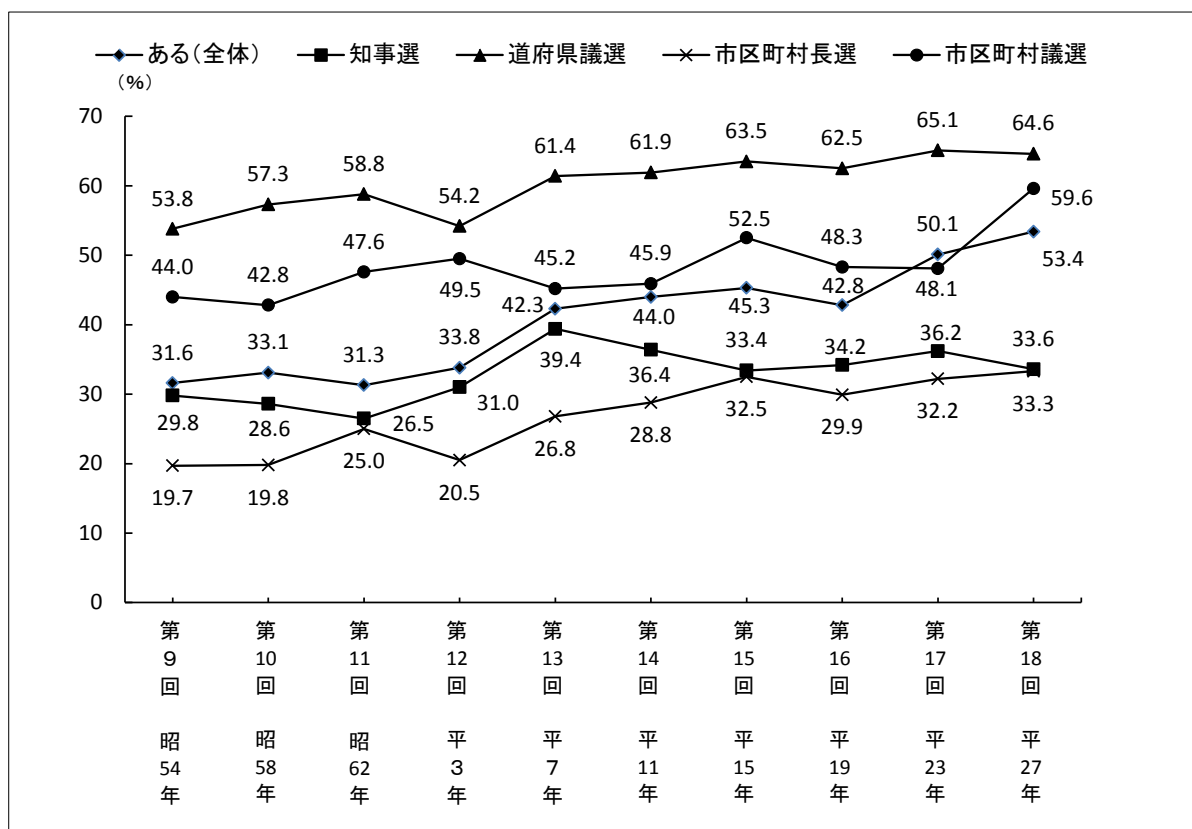
(4) 候補者情報

本調査では、候補者に関する情報が不足していると感じているかどうかについて「地方選挙で『候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る』という声があります。最近の地方選挙で、あなたはそう感じたことがありますか」と尋ねている。この質問に、感じたことが「ある」と答えた回答者の割合を、過去と比較できるようにしたのが図 22 である。

この図からわかるように、候補者情報の不足を認識している有権者の数は、年々増加傾向にある。第 9 回統一選（昭 54）から第 12 回統一選（平 3）までは、その割合が 30% 台の前半であったのが、第 13 回統一選（平 7）から 40% を超え、前回の統一選で 50.1% と半数を超えたが、今回は更に増加し 53.4% となっている。地方選挙における候補者情報の不足は大きな問題として定着しつつある。

上の質問で感じたことが「ある」と答えた 53.4% の回答者に、そう感じたのは「どの選挙でしたか」と尋ねたところ（複数回答可）、道府県議選が最も多くて 64.6%、次いで市区町村議選 59.6%、知事選 33.6%、市区町村長選 33.3% であった。前回と比べると、市区町村議選（前回 48.1%）で 11.5 ポイント増加している。

図 22 候補者情報の不足を感じたことがある人の割合

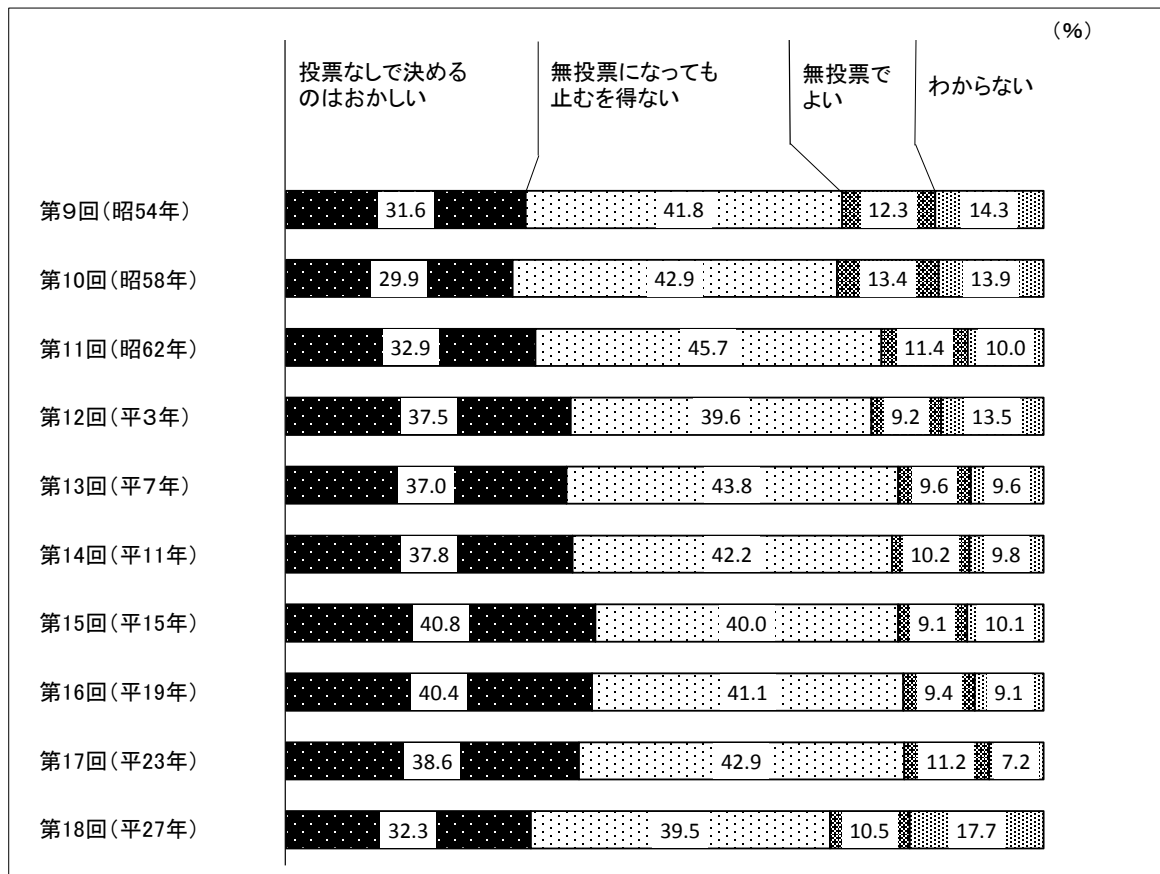


7 選挙のあり方 —無投票当選の是非—

地方選挙においては、無投票当選者が多く、今回の統一選でも、市長 27 人、町村長 53 人、道府県議 501 人、市議 263 人、町村議 930 人の合計 1774 人が無投票で当選した。本調査では、有権者がこれらの無投票当選をどのように受け止めているかを探るため、「今回の統一選では、道府県議会議員選挙や市区町村長選挙などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどのように思われますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください」として、(ア) 公職者（首長や議会議員）は投票で決めるのが本筋であるのに、投票なしに決まるのはおかしい、(イ) 定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になっても仕方がない、(ウ) 選挙のわずらわしさを、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい、の 3 つの選択肢の中から 1 つ選んでもらっている。図 23 は、その結果を過去の調査結果と対比したものである。

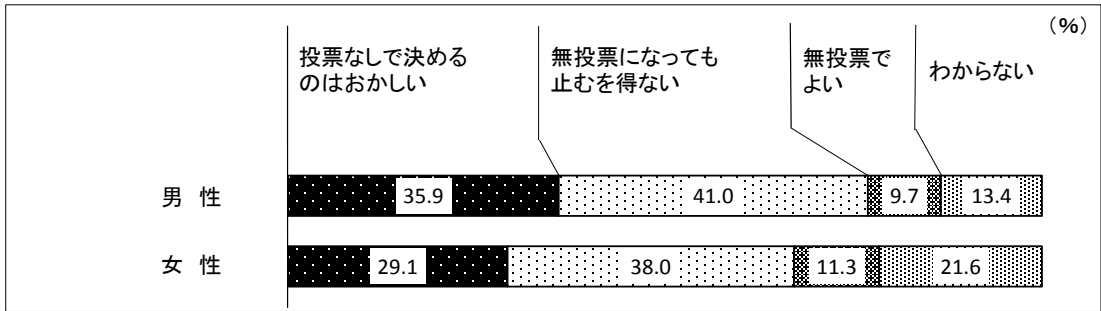
これを見ると「投票なしで決めるのはおかしい」が徐々に増加していたが、前々回から減少に転じ、今回は 32.3% と前回 (38.6%) より更に低くなった。「無投票になってもやむを得ない」、「無投票でよい」と答えた人も減少し、「わからない」が増加（前回 7.2% → 今回 17.7%）しているので、調査方法の違いが影響したとも考えられる。

図 23 無投票当選についての考え



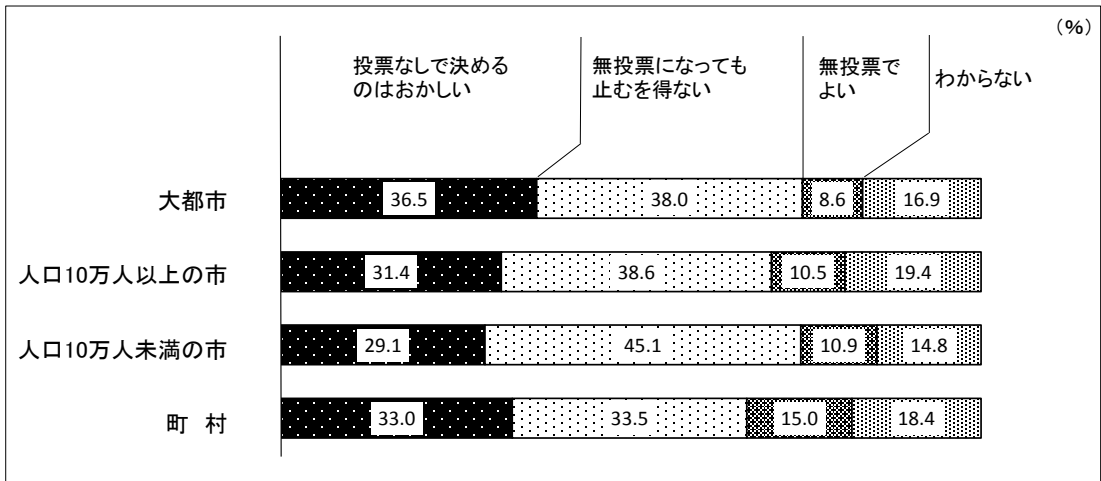
今回の調査結果を男女別で見ると、「投票なしで決めるのはおかしい」と答えた人は男性の方が多く、女性は「わからない」が多くなっている。

図 24 男女別・無投票当選についての考え



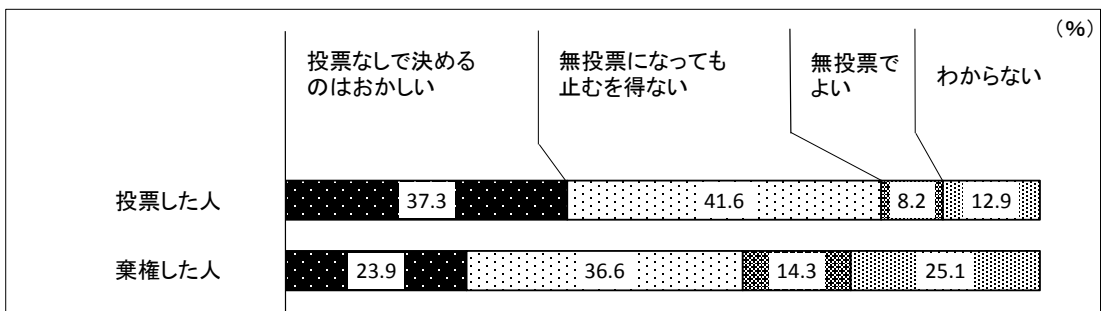
都市規模別に見ると、「無投票でよい」と答えた人は、大都市で比較的少なく、町村で比較的多い。

図 25 都市規模別・無投票当選についての考え



投票した人と棄権した人を比べてみると、棄権した人は投票した人に比べて「投票なしで決めるのはおかしい」と答えた人がかなり少なく、反対に「無投票でよい」、「わからない」と答えた人が大幅に多い。

図 26 投票した人、棄権した人別・無投票当選についての考え方

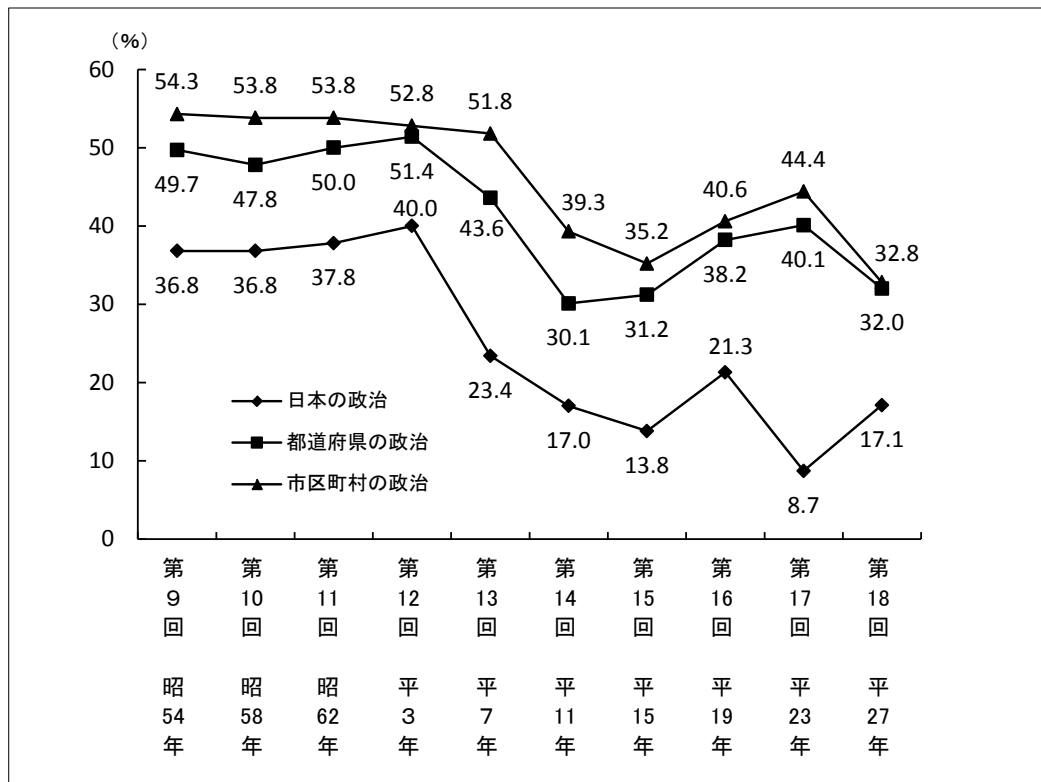


8 国と地方の政治の評価

国及び地方の政治に対する国民の評価を探るため、「日本の政治」、「あなたの県（都・道・府）の政治」、「あなたの市（区・町・村）の政治」に分けて、それぞれ「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」「どちらともいえない」の5つから選択してもらった。図27は、第9回統一選（昭54）以降の10回分の結果を時系列でまとめたもので、それぞれの政治に関して、「非常によい」と「まあよい」の肯定的な評価を合計し、比較したものである。

図27からは次のようなことが読み取れる。第一に、調査開始以来一貫して「日本の政治」より「都道府県の政治」の方が、また「都道府県の政治」より「市区町村の政治」の方がより評価が高かったが、今回調査では「都道府県の政治」と「市区町村の政治」の評価がほぼ同じものになった。第二に、「都道府県の政治」及び「市区町村の政治」に対する評価は下がったが、「日本の政治」に対する評価は前々回の水準に戻った。

図27 国及び地方の政治に対する評価

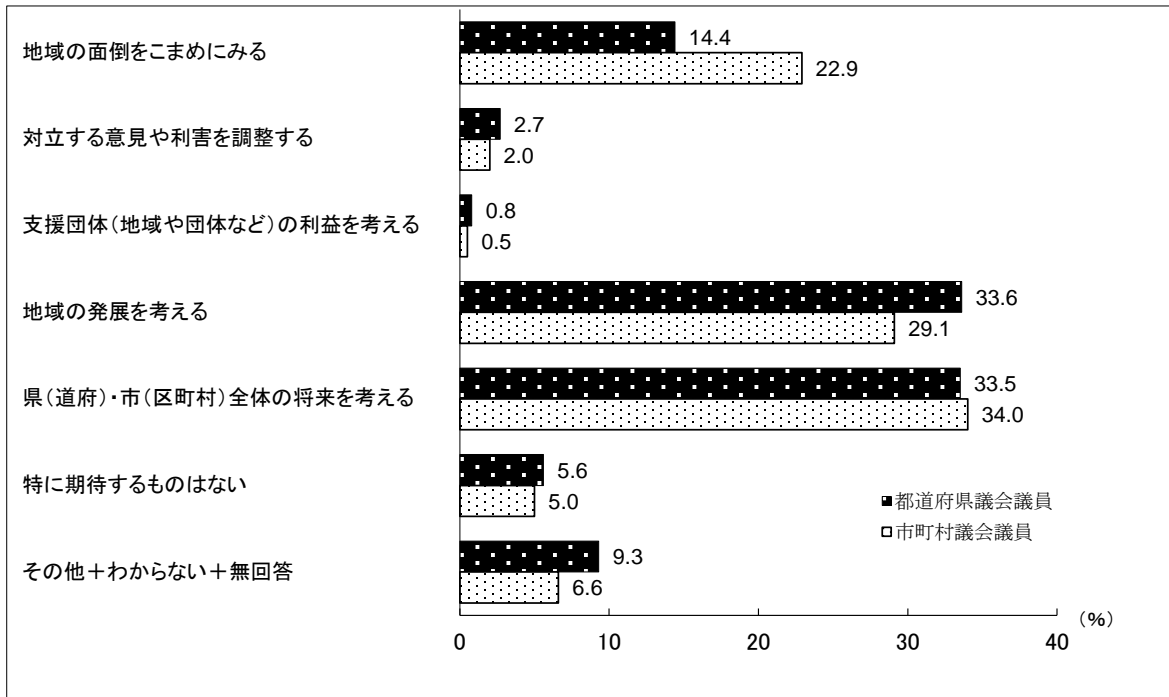


9 議員の役割

前回調査に引き続き、今回の調査でも全調査対象者に対して「県（都道府）議会議員に対してどのような役割を望まれていますか」「市（町村）議会議員に対してどのような役割を望まれていますか」という二つの質問をし、7つの選択肢から一つだけ選んでもらった。その結果をまとめたのが図28である。

これによると、都道府県議会議員では「地域の発展を考える」が最も多く、次いで「県・市全体の将来を考える」、「地域の面倒をこまめにみる」の順になっている。市町村議会議員では「県・市全体の将来を考える」が最も多く、次いで「地域の発展を考える」、「地域の面倒をこまめにみる」の順となっている。前回同様、「地域の発展を考える」という役割は市議会議員よりも県議会議員により多く期待されており、逆に「地域の面倒をこまめにみる」という役割は県議会議員よりも市議会議員により多く期待されている。

図28 議員の役割

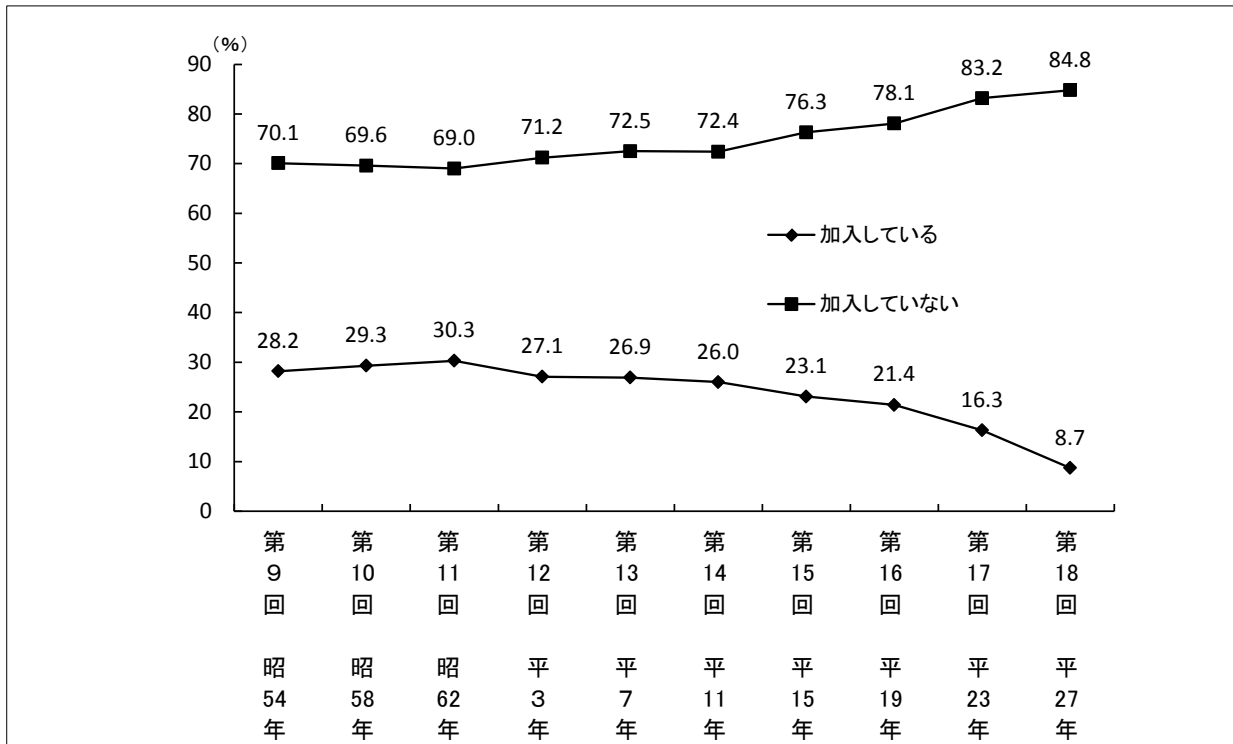


10 後援会への加入

本調査では、毎回「あなたは、今回の統一地方選挙の候補者の後援会に加入されていますか」という質問を行っている。

「加入している」と「加入していない」人の割合の推移を見たのが図 29 である。「加入している」人は、かつては 30%前後を占めていたが、徐々に減少し、特に今回は前回から大きく減少して 8.7%と 1 割を切った。

図 29 後援会への加入状況



11 政治家の寄附禁止の周知

政治家が選挙区内の人に寄附することは禁止され、原則として罰則の対象となっている。このことを知っていたかどうか聞いたところ、前回（93.0%）から若干減少して89.9%の人が「知っていた」と答えた。

さらに、「お歳暮やお中元」など12項目を示し、「政治家が、下記のものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。」という質問を行った。この選択肢の内「政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝」と「政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典」は、禁止されてはいるものの罰則の対象にはならないので、この2つを挙げた場合は誤答になる。

その結果をまとめたのが表10であるが、回答の傾向はこれまでの調査と概ね変わっていない。具体的な禁止項目の認識は、「お歳暮やお中元」が最も高く、前々回が77.1%、前回は78.2%、今回は75.4%であった。他方、「葬式の花輪・供花」（37.4%）、「秘書等が代理で出席する場合の結婚祝」（34.9%）、「病気見舞」（32.8%）、「秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典」（33.2%）は、今回、前回調査よりも約10ポイント減少し、認知度が4割以下と低い。

政治家の寄附が禁止されていることの周知度は高いが、禁止されている寄附行為の具体的形態についての有権者の認知度は前回よりも低く、寄附禁止の周知の徹底が望まれる。

前回までとの対比では、調査方法が異なる点に留意する必要がある。特に「政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝（正答率今回82.3%、前回62.9%）」「政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典（今回83.9%、前回66.5%）」の正答率が上がっているのは調査方法の違いが影響していると考えられる。

表10 寄附禁止(具体事例)の認知度

(%)

		第14回 (平11)	第15回 (平15)	第16回 (平19)	第17回 (平23)	第18回 (平27)
正 答	お歳暮やお中元	75.7	76.0	77.1	78.2	75.4
	入学祝、卒業祝	62.8	63.1	65.1	67.5	66.0
	町内会の集いや旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ	57.3	54.1	59.1	58.5	56.7
	落成式、開店祝いの花輪	55.1	52.8	40.9	54.2	45.3
	葬式の花輪、供花	51.2	50.6	53.5	46.8	37.4
	お祭りへの寄附や差し入れ	51.6	50.4	51.4	53.9	46.9
	地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ	50.4	48.3	51.7	53.6	48.0
	秘書等が代理で出席する場合の結婚祝	41.4	42.5	42.0	45.3	34.9
	秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典	39.5	40.9	40.9	42.7	33.2
	病気見舞	39.3	40.0	42.2	45.2	32.8
誤 答	政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝	29.4	34.1	33.7	37.1	17.7
	政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典	27.6	31.8	31.7	33.5	16.1

12 選挙制度など

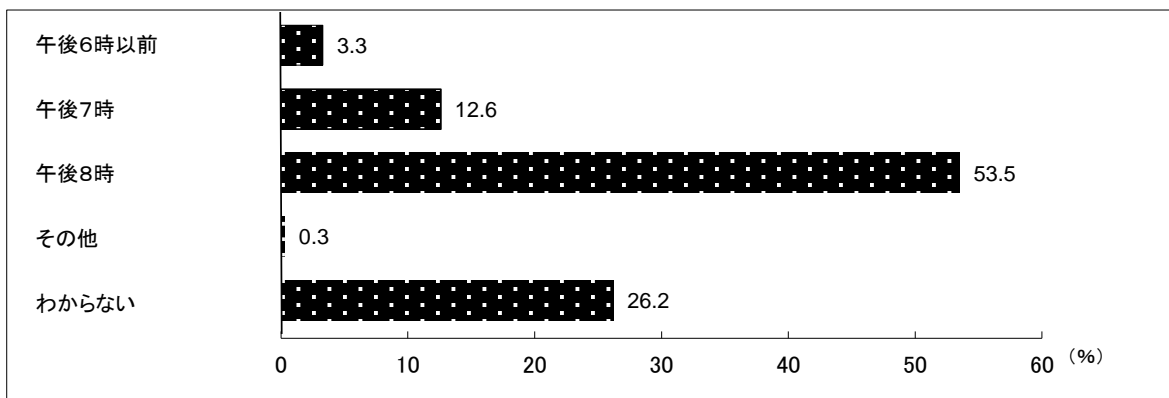
(1) 投票時間

平成9年12月に公職選挙法の一部が改正され、有権者ができるだけ投票しやすいように、投票環境の改善がなされた。その一つが投票時間の延長で、それまで、午後6時までであった投票時間が午後8時まで延長され、夕方まで仕事のある人や昼間はレジャーに出かける人も投票できるようになった。しかしながら近年、投票の終了時間を早める市町村が増えている。

本調査では調査対象者の地域の投票所の投票時間を尋ねており、その回答結果は図30のとおりである。このうち「午後8時」と回答した人に絞って、投票した時間をまとめたのが表11である。これによると、午後6時以降に投票した割合は11.5%であるが、年代による違いが大きい。今回は20歳代(21.1%)が最も高く、次いで40歳代(20.5%)、50歳代(16.9%)、30歳代(16.7%)が続く。

若年層に限らず、中年層の利用も目を引く。反対に60歳代以上の大半は午前、午後投票を済ませており、午後6時以降は4~6%台に過ぎない。

図30 投票所の投票時間



* 「無回答」除く

表11 投票時間(各年代ごとの投票時間の割合)

(%)

	午前中	午後(6時まで)	午後6時から 8時の間
全体	53.3	35.2	11.5
20歳代	26.3	52.6	21.1
30歳代	48.7	34.6	16.7
40歳代	45.5	33.9	20.5
50歳代	41.5	41.5	16.9
60歳代	53.3	40.7	6.0
70歳代	66.2	28.9	4.9
80歳以上	78.6	16.1	5.4

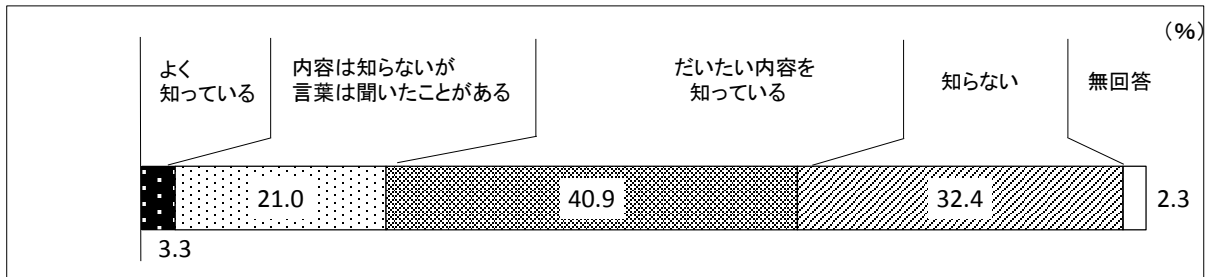
* 「わからない」、「無回答」は除いて計算した。

(2) 国民投票法

本調査では「あなたは「国民投票法（憲法改正国民投票法）」を知っていますか」と国民投票法の認知度を尋ねている。

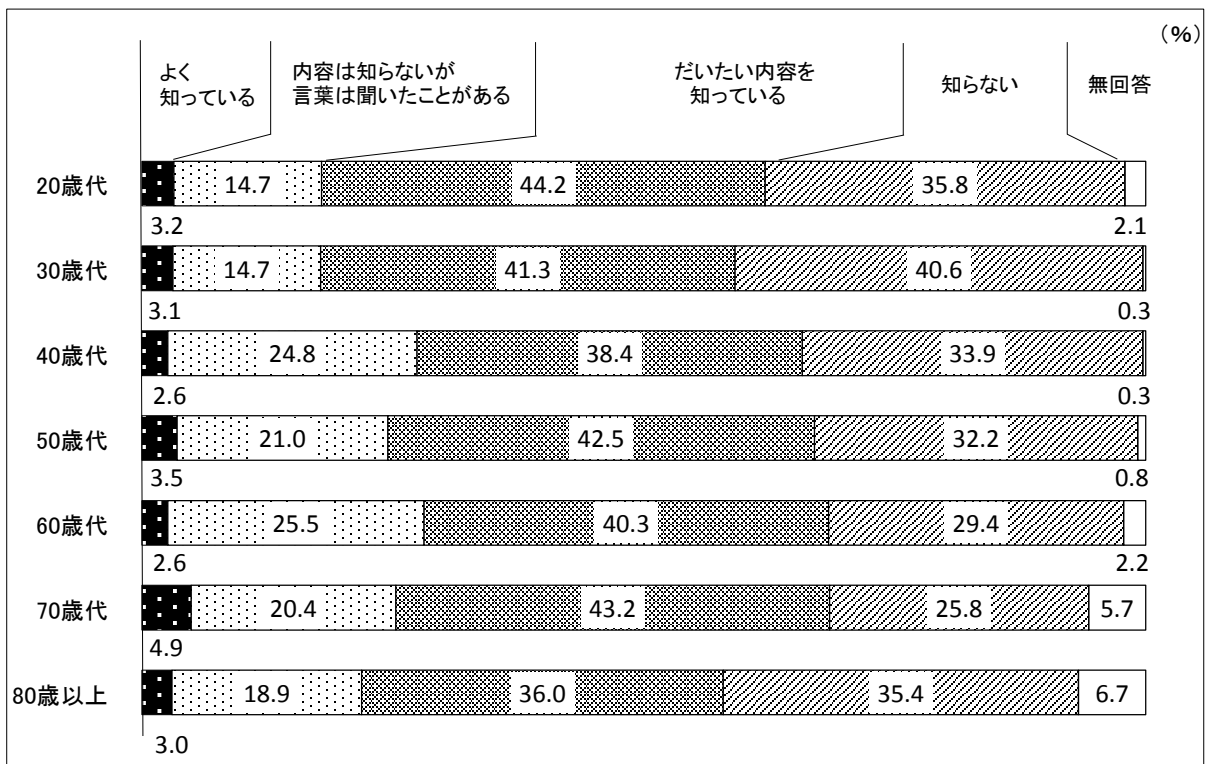
今回、「よく知っている」と回答したのは3.3%、「だいたい内容を知っている」が21.0%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が40.9%、「知らない」が32.4%となった。

図 31 国民投票認知度



年代別に見ると、「よく知っている」、「だいたい内容を知っている」を合わせた割合は、20歳代、30歳代が若干低い。

図 32 年代別国民投票認知度



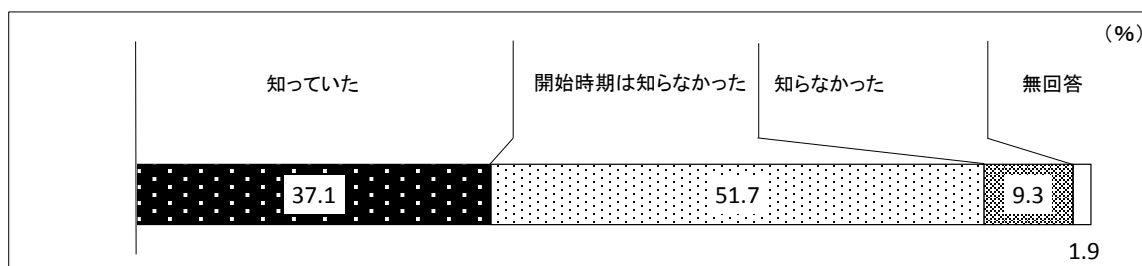
(3) 選挙権年齢の引下げ

平成 27 年 6 月の公選法の改正により、平成 28 年 6 月 19 日の後に行われる国政選挙の公示日以後にその期日を公示又は告示される選挙から、選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられることとなった。

本調査では選挙権年齢の引下げの認知についても尋ねている。回答結果を図 33 にまとめた。

「知っていた」と回答した人は 37.1%、「選挙権年齢が 18 歳以上であることは知っていたが、開始時期は知らなかった」が 51.7%、「知らなかった」が 9.3%で、約 9 割の人が選挙権年齢が引き下がったことを知っていた。

図 33 18 歳選挙権認知度



これを年代別に見ると、図 34 のとおりである。「知っていた」を見ると、年齢が上がるにつれて認知度も高まっていく。選挙権年齢の引下げは知っていたが「開始時期は知らなかった」人を含めると、20 歳代においても 8 割以上が認知していた。

図 34 年代別 18 歳選挙権認知度

